

大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町の奄美大島
4 町村は、男女共同参画推進総合計画の策定に
向けて住民の意識や現状を把握するため、
共同で調査を実施しました。

男女共同参画に 関する住民意識 調査結果の概要

2024 年 3 月

龍郷町

目 次

I 調査の概要	
1 調査の目的	1
2 調査の方法	1
3 回答者の属性	1
II 調査結果	
1 男女の地位の平等感について	2
（1）各分野の男女の地位の平等感	2
（2）男女の地位が不平等と感ずること	9
2 固定的な性別役割分担意識について	11
（1）性別による固定的な役割分担に対する考え方	11
（2）性別による固定的な役割分担を肯定する理由	12
（3）性別による固定的な役割分担を否定する理由	13
（4）女性が職業を持つことに対する考え	14
3 家庭生活・地域活動について	15
（1）家事、育児、介護・看護、地域活動における夫婦の役割分担	15
（2）男性が家庭や地域活動に積極的に参加するために必要なこと	18
4 子育てに関する考え方について	19
5 職業生活について	21
職場における性別による格差の状況	21
6 ジェンダーに起因する暴力について	23
（1）交際相手や元交際相手から暴力を受けた経験	23
（2）配偶者や元配偶者からの暴力を受けた経験	24
（3）暴力を受けたときの相談先	26
7 男性としての生きづらさについて	27
（1）男性としての生きづらさや不便さ	27
（2）男性として生きづらさや不便さを感じること	27
8 生活上の困難について	29
（1）相談窓口に必要な配慮	29
（2）生活上の不安や困難	30
9 男女共同参画社会を実現するために役場が力を入れていくべきこと	34
10 男女共同参画社会の実現に向けての意見・要望	36
参考 男女共同参画に関する住民意識調査票	38

「前回」：2013 年度に龍郷町が実施した『男女共同参画に関する町民意識調査』の結果
「奄美大島町村」：2023 年度に大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町が実施した『男女共同参画に関する住民意識調査』の集計結果
「県」：2021 年度に鹿児島県が実施した『男女共同参画に関する県民意識調査』の結果
「全国」：2022 年度に内閣府が実施した『男女共同参画に関する世論調査』の結果

I 調査の概要

1 調査の目的

住民の男女平等感やジェンダーに関する意識、家庭や職場、地域における現状、抱えている困難な問題を把握し、男女共同参画社会の形成に向けた施策や地域づくりの参考にする。

2 調査の方法

- (1) 対 象 18 歳以上で龍郷町に居住する住民
- (2) 抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出
- (3) 回収状況 配布数：2,000 回収数：587（回収率 29.9%） 有効回収数：564（有効回収率 28.2%）
- (4) 調査期間 2023 年 8 月 7 日～25 日
- (5) 調査方法 大和村、宇検村、瀬戸内町の 3 町村と同じ調査票により共同で実施し、郵送による配布・回収

3 回答者の属性 単位：%

(1) 性別

	女 性	男 性	それ以外	無回答
割 合	56.6	41.1	0.2	2.1

(2) 年代

	18～29 歳	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 歳以上	無回答
総 計	6.0	11.2	15.6	17.4	19.5	16.7	8.9	4.8
女 性	6.9	12.2	14.7	20.1	21.0	14.4	6.9	3.8
男 性	5.2	9.9	17.2	14.7	18.1	20.3	11.2	3.4

(3) 結婚の状況

	結婚している	事実婚	離別・死別	未婚	無回答
総 計	64.9	1.4	14.2	16.0	3.5
女 性	62.4	1.6	16.9	17.2	1.9
男 性	70.7	0.9	11.2	14.7	2.6

(4) 世帯構成

	単身世帯	夫婦世帯	二世帯世帯	三世帯世帯	その他	無回答
総 計	20.4	33.0	35.5	1.4	2.5	7.3

(5) 夫婦の就労状況

	二人とも仕事がある	自分のみ仕事がある	配偶者のみ仕事がある	どちらも仕事がない	その他	無回答
総計 (n=374)	60.2	8.8	9.6	14.2	1.1	6.1
女性 (n=204)	64.2	5.9	7.4	12.7	2.0	7.8
男性 (n=166)	56.0	12.7	12.0	15.7	0.0	3.6

(6) 仕事の状況

	正規雇用	非正規雇用	自営業主	家族従業者	無職	その他	無回答
総 計	33.0	18.8	9.2	1.2	30.1	1.2	6.4
女 性	28.8	27.3	5.0	1.6	30.4	2.2	4.7
男 性	39.7	8.2	15.5	0.9	30.6	0.0	5.2

※本書では、自営業主と家族従事者を「自営業者」という。

(7) 子どもの年齢（複数回答）

	乳幼児	小学生	中学生	高校・高専生・専門学校・短大・大学生	未婚の子ども	既婚の子ども
総 計	8.0	11.0	5.3	9.6	20.2	16.1
女 性	8.8	10.3	5.0	10.0	20.7	15.7
男 性	7.3	12.5	6.0	9.5	20.3	17.2

注：「小学生」：2011 年 4 月 2 月～2017 年 4 月 1 日生まれ

「中学生」：2008 年 4 月 2 月～2011 年 4 月 1 日生まれ

「未婚の子ども」：2008 年 4 月 1 日以前生まれの未婚（学生除く）

「既婚の子ども」：2008 年 4 月 1 日以前生まれで既婚（学生除く）

Ⅱ 調査結果

1 男女の地位の平等感について

(1) 各分野の男女の地位の平等感

ア 総計

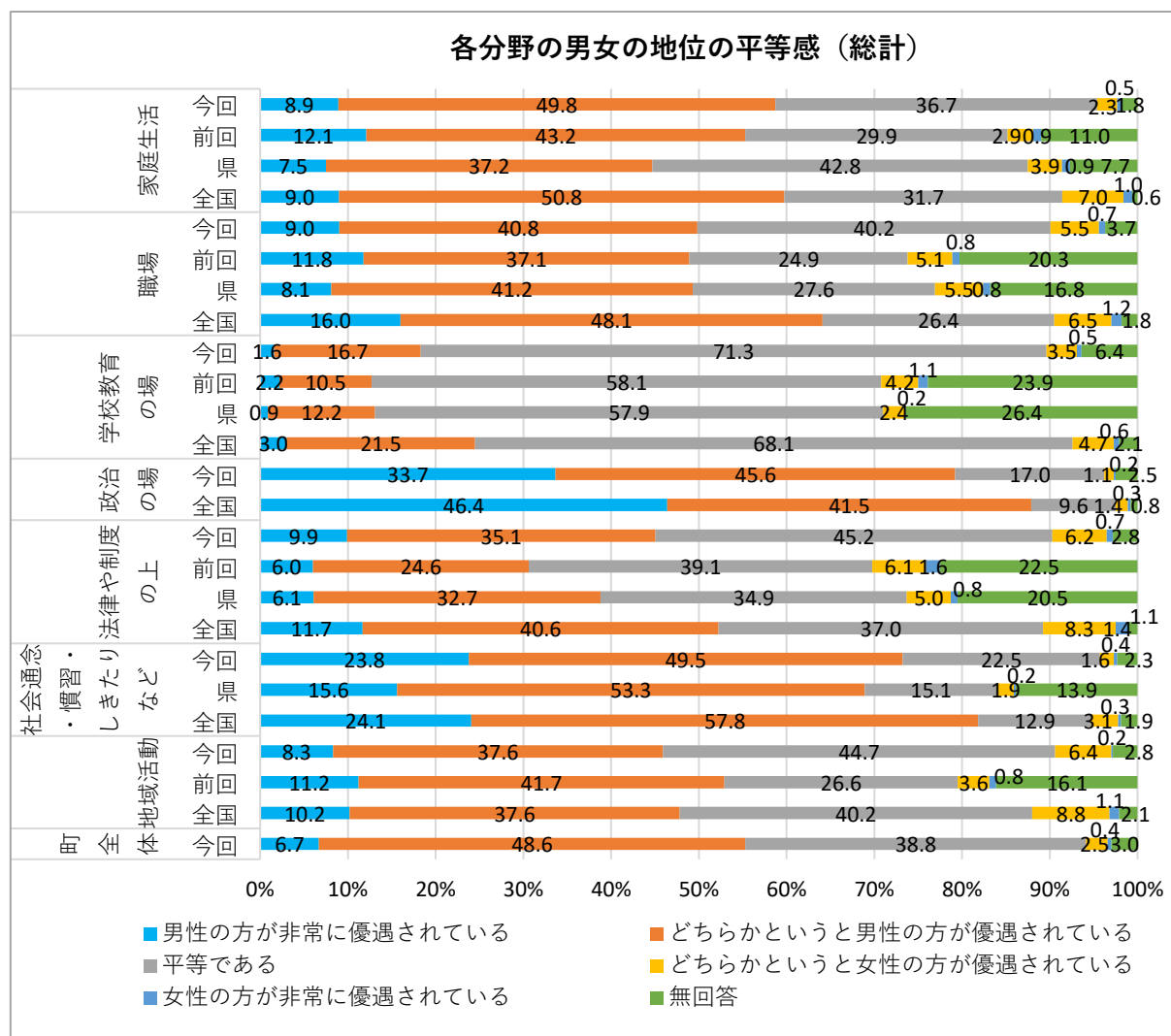
- ・ 7分野と「町残体を見た場合」における男女の地位の平等感について訊いたところ、『平等』と回答した割合が高いのは「学校教育の場」。
- ・ 『男性の方が非常に優遇』又は『どちらかといえば男性の方が優遇』（以下『男性優遇』という。）と回答した割合が高いのは「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」、「家庭生活」。

イ 前回との比較

前回と比較できる5分野において『男性優遇』と回答した割合は、「地域活動」で低下し、その他の4分野で上昇。特に「法律や制度の上」で上昇幅が大きい。

ウ 奄美大島町村・県・全国との比較 ※県は、「政治の場」「地域活動の場」「町全体で見た場合」なし。

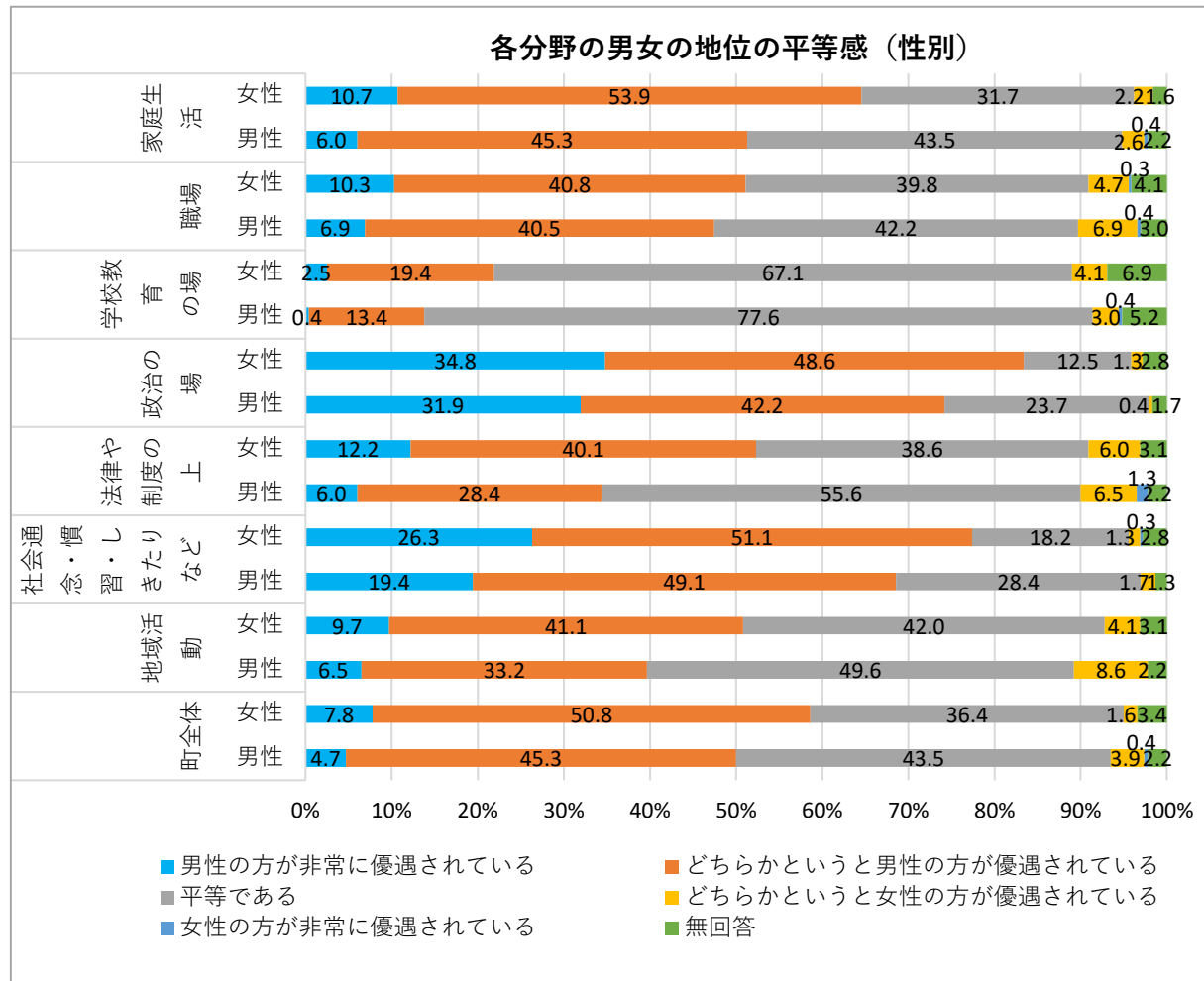
- ・ 奄美大島町村と大きな差はみられない（グラフ省略）。
- ・ 県と比較できる5分野において『男性優遇』と回答した割合は、「職場」は同程度で、それ以外の分野は上回り、特に「家庭生活」で差が大きい。
- ・ 全国と比較すると、『男性優遇』と回答した割合は、「家庭生活」と「地域活動」は同程度で、それ以外の分野は下回り、特に「職場」で差が大きい。



エ 性別

すべて分野で『平等』と回答した割合は女性より男性が高く、『男性優遇』と回答した割合は男性より女性が高い。その差が大きい分野は「法律や制度の上」と「家庭生活」。

「町全体で見た場合」も、『平等』と回答した割合は男性の方が高く、『男性優遇』と回答した割合は女性の方が高い。



オ 性・年代別

(ア) 概要

男女とも70代が『男性優遇』、29歳以下が『平等』と回答した割合が高い傾向にある。どの性・年代も『女性優遇』と回答した割合は低いものの、40代男性は「職場」や「法律や制度の上」で他の年代に比べて高い傾向にある。

(イ) 家庭生活における男女の地位の平等感

『男性優遇』と回答した割合が最も高いのは70代女性で約7割、30歳以上の女性と70代男性も6割を超える。一方、29歳以下の女性と50歳以下の男性は『平等』が6割を超える。

(ウ) 職場における男女の地位の平等感

『平等』と回答した割合が高いのは29歳以下の男性で66.7%。一方、『男性優遇』と回答した割合は、男女とも70代が最も高い(女性69.6%、男性76.6%)。

(エ) 学校教育の場における男女の地位の平等感

女性では、29歳以下の9割が『平等』と回答しているが、40～60代の2割以上、70代以上の3割以上が『男性優遇』と回答。一方、男性では、『平等』と回答した割合が、29歳以下、50代、70代で8割を超えている。

(オ) 政治の場

すべての年代で『平等』より『男性優遇』と回答した割合が高く、40代女性は9割、60・70代女性と70代男性は8割を超え、40・50・70代女性では「非常に優遇」と回答した割合が3割を超えている。

(カ) 法律や制度の上

29歳以下の男女の7割以上が「平等」と回答し、男性の50代以外で『男性優遇』より『平等』と回答した割合が高い一方、30代以上の女性は『平等』より『男性優遇』と回答した割合が高い。

(キ) 社会通念、慣習・しきたりなど

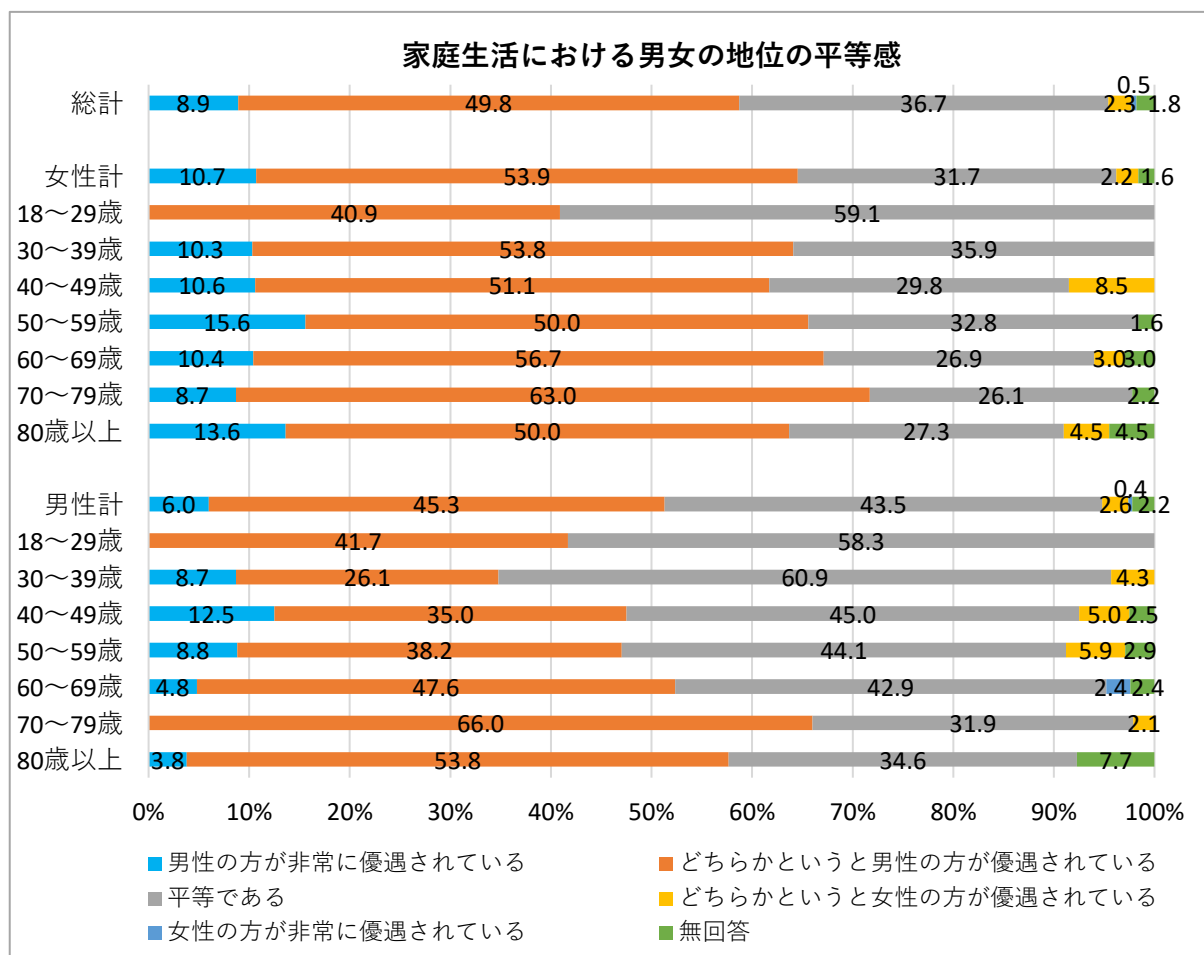
すべての年代で『平等』より『男性優遇』と回答した割合が高く、30・40・70代の女性は8割、50・60代の女性と40・70代の男性も7割を超えている。40・50・70代の女性と29歳以下の男性は『男性が非常に優遇』が3割超。

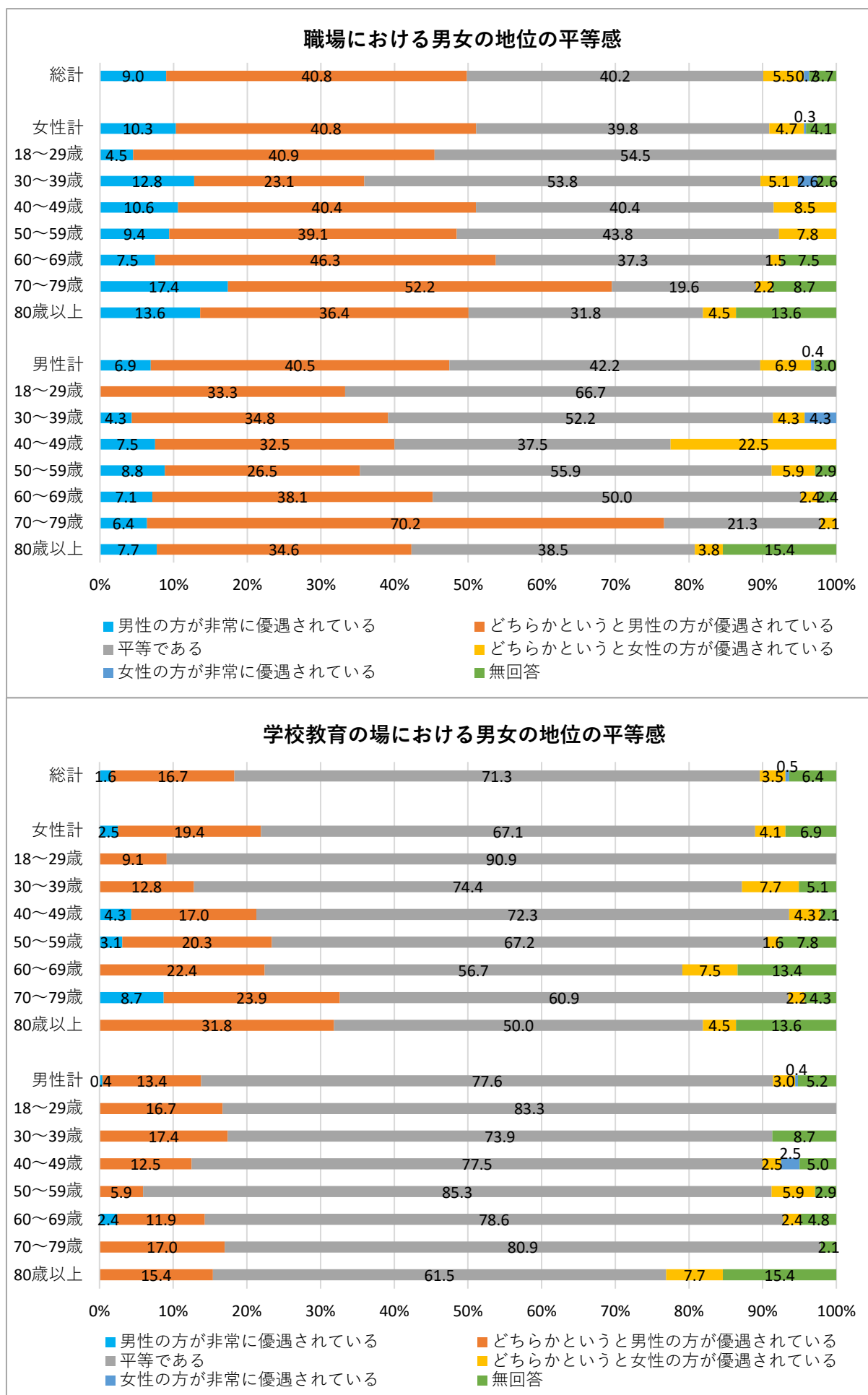
(ク) 自治会やPTAなどの地域活動の場

29歳以下と60・80代の女性、70代以外の男性で、『男性優遇』より『平等』と回答した割合が高い一方、30～50代と70代の女性は『男性優遇』と回答した割合が『平等』より約20ポイント高い。

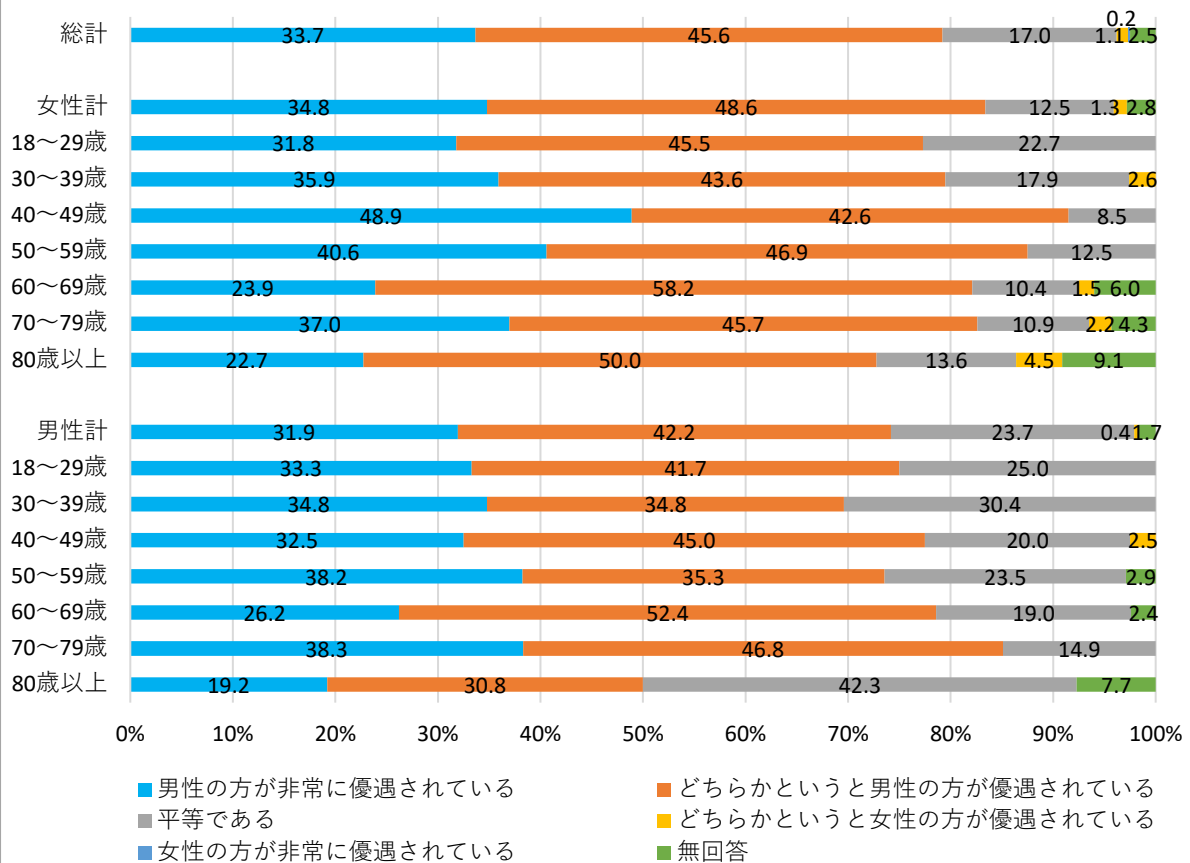
(ケ) 町全体で見た場合

29歳以下の男女と30代男性は『平等』と回答した割合が高いが、他の年代は『男性優遇』と回答した割合の方が高く、30～50代と70代の女性及び70代以上の男性では6割を超えている。

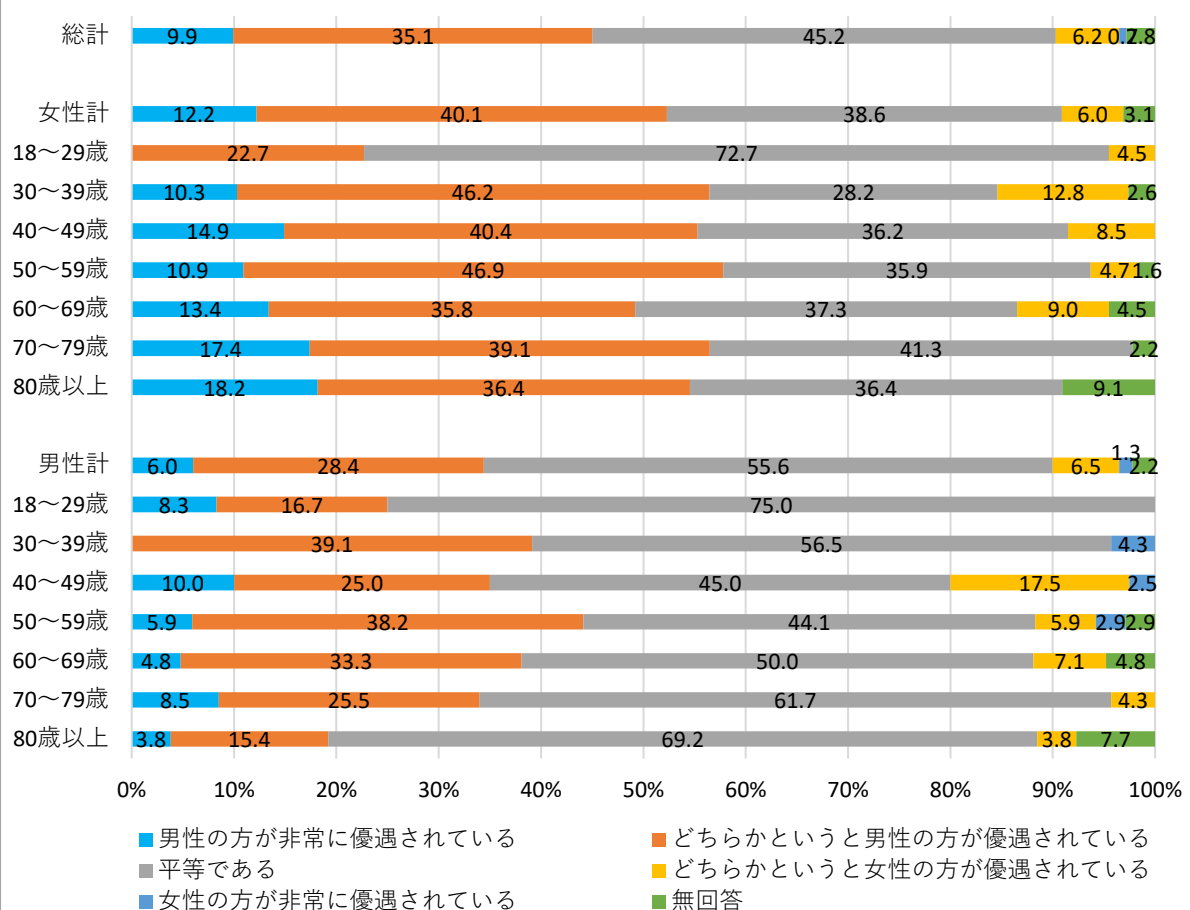




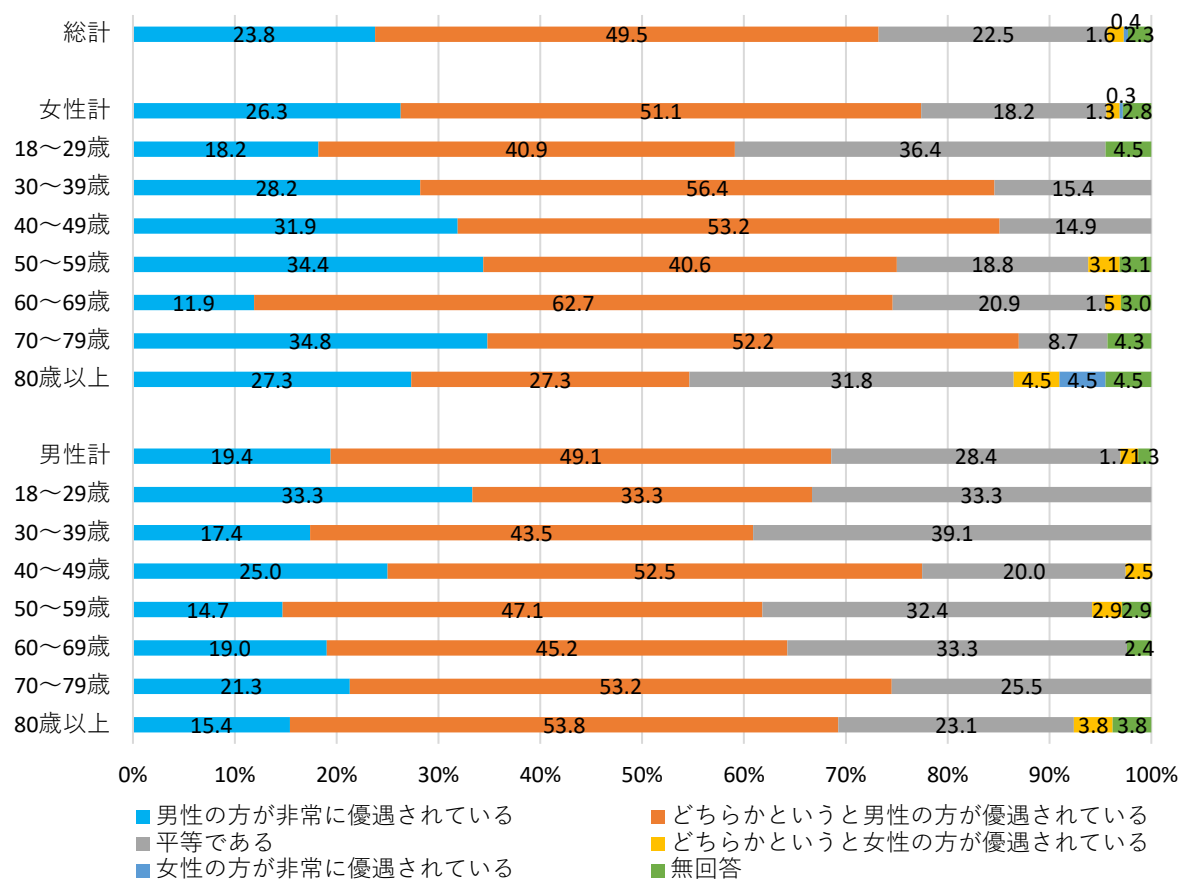
政治の場における男女の地位の平等感



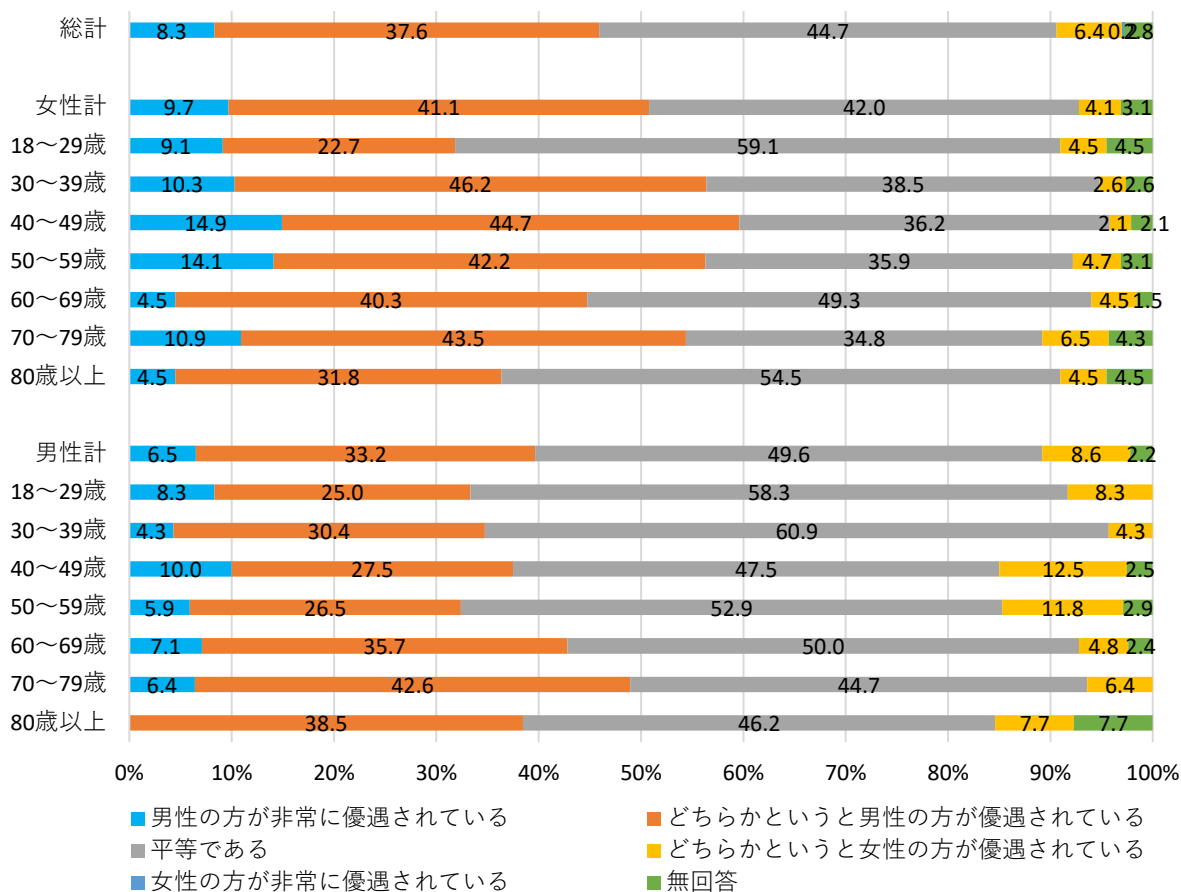
法律や制度の上の男女の地位の平等感

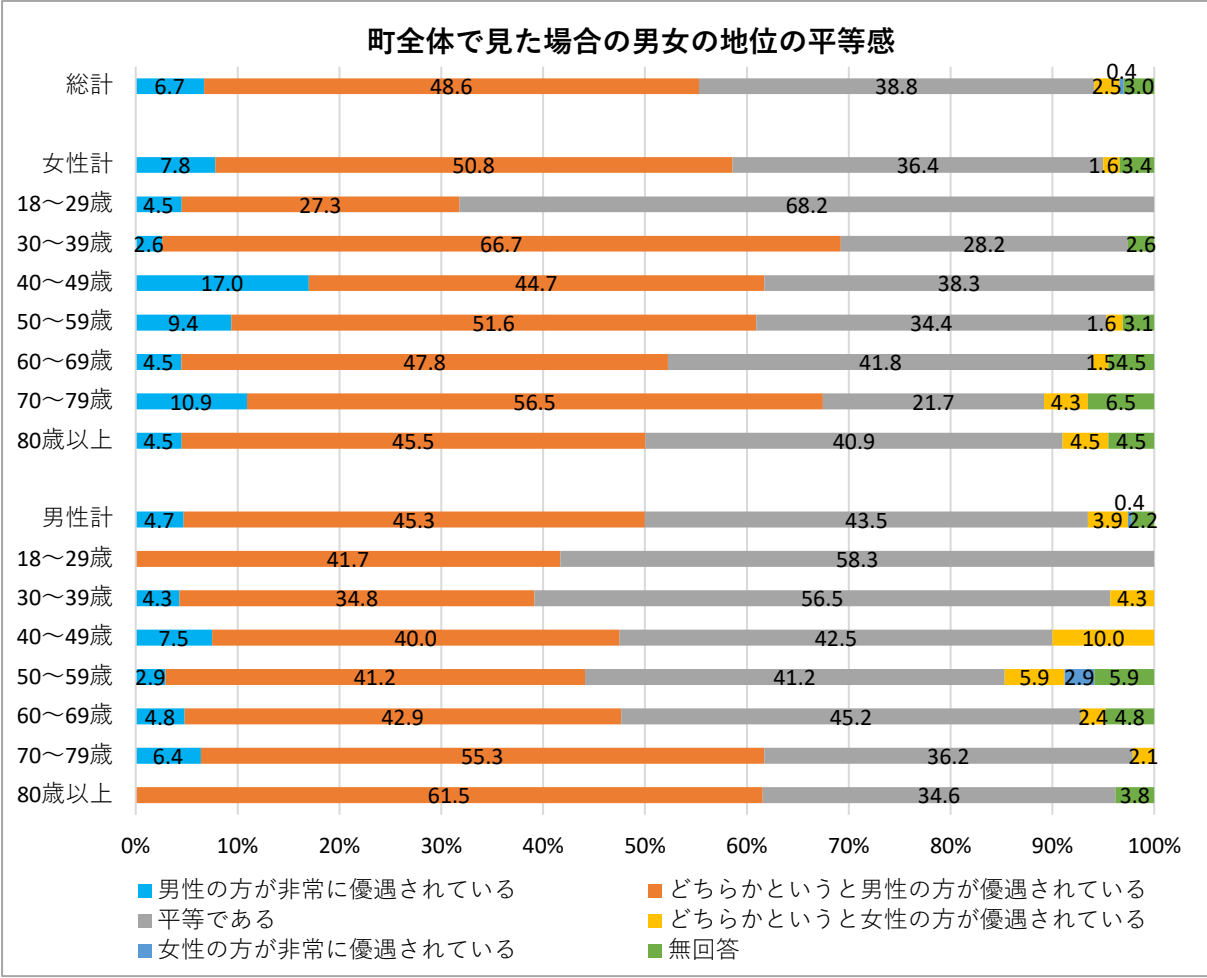


社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女の地位の平等感



自治会やPTAなどの地域活動の場





(2) 男女の地位が不平等と感じていること（主な回答）

男女の地位が不平等と感じていることを聞いたところ、86 件の回答があり、（問への回答に該当する）主なものは次のとおり。

※紹介している回答の中には、同じ内容のものをまとめたり、抜粋しているものがあります。

■家庭生活（18 件）

- ・ 女性が様々なことに参加できる制度の整備は必要だが、男性が女性の仕事（家事）を同じだけ負担してくれないと意味がない。家事等は「面倒くさい」「仕事で疲れている」と女性に押しつけている。まずは管理職やトップが家事をしてみていただきたい。(30 代女性)
- ・ お盆や正月等で女性は休まず炊事をし、男性は手伝うことなく団らんする昔ながらの風習がある。(30 代女性)
- ・ 女性の家事・育児は当然で、男性には評価が必要な時点で不平等。(30 代女性)
- ・ 家事、育児、介護は女性がするものという考えが根深い、平等でない。(30・50 代女性各 2、60 代女性、70 代男性)
- ・ 共働きでも女性の家事負担が重い。女性の方があくせく動かざるを得ない。(30・50 代女性、60 代女性)
- ・ 外で同じように仕事をしていても家事はすべて女性がするのが当たり前の環境で育った夫は、未だにその考えを変えようとせず何一つ家事を手伝わない。(50 代女性)
- ・ 未だに長男が全て相続。男の人をたてないと家庭がうまくいかないと言っている人（高齢者に多い）がいる。(70 代女性)
- ・ 家庭における決定権が男の人ということが多い。(70 代女性)
- ・ 高齢ほど考え方が男性中心で、夫は妻に暴言を吐き、家主権力が強い。(70 代女性)

■職場（17 件）

- ・ 女性は子育て、地域活動などで時間や労力を割かれ、やりたいことをやれない。女性の社会進出は難しい。(20 代女性)
- ・ 職場で男性正社員にばかり有給休暇を取らせ、正社員が当たり前と押しつけてくる。(30 代女性)
- ・ 食器洗いは女性職員の仕事ではないので、男性（管理職）も自分で洗ってほしい。(30 代女性)
- ・ 職場では女性の方が優遇されている。(30 代男性)
- ・ 男性の方が給与・賃金が高い。(30・40 代女性、70 代男性)
- ・ 役職・管理職には男性が多く、女性が非常に少ない。(40・50 代女性各 2、60 代女性)
- ・ 職場ではまだまだ「女は妊娠・出産ですぐ辞めるからな」という雰囲気がある。(50 代男性)
- ・ 女性は意見を言っても軽く聞き流されることが多い。(60 代女性)
- ・ 女性の正採用を控える傾向がある。(60 代男性)
- ・ 結婚で仕事を続けることができない。(60 代性別不明)
- ・ 女性に責任ある仕事を任せていない。女性の能力が正しく評価されていない。(70 代・80 歳以上男性)

■学校教育の場（2 件）

- ・ 学校の運動会で来賓へのお茶出しは母親が担当。学校が性別役割分担をし、それを是とする教育をしている。(40 代女性)
- ・ 大人が減って、子どもが増えている。女性の先生も子育ての補助など優遇してほしい。(40 代男性)

■政治・行政の場（6 件）

- ・ 女性町議員が少ないことを補い女性の意見を市政に反映する努力を何もしていない。(40 代女性)
- ・ 女性町議会議員が少ない。(40・50・60・80 歳以上女性、70 代男性)
- ・ 女性は政治に参加したくても、どんなに能力があっても、育児、介護があり、家庭を守る立場にあり、表舞台に出ることはできない。男女(夫婦)フェアな生活を行政にもサポートしてほしい。男性もヨーロッパや諸外国の勉強してほしい！(50 代女性)
- ・ 役場の幹部職員・管理職に女性が少ない。(60 代女性、70 代・年代不明男性)

■法律や制度の上（4 件）

- ・ 結婚したらほとんどの場合、女性が姓を変えなければいけない。(30 代女性)
- ・ 母子家庭と父子家庭で行政の支援に差がある。(60 代男性)
- ・ 役場からの文書の宛名に（夫名）様方（妻名）様と記されていることが多く、妻としては違和感がある。(70 代女性)
- ・ 配食弁当は娘が同居していると利用できない。息子なら可能か？(年代・性別不明)

■社会通念・慣習・しきたりなど (13 件)

- ・ 男性中心で物事が進む。女性はそのに加わりにくい風潮がある。(20 代女性)
- ・ 集落のお酒の場は男女不平等・男性優位。飲み方も行事も男性は座って飲むだけで、女性ばかり片付けや料理と忙しい。子ども達に引き継ぎたくない文化(20・30・40・60 代女性、70 代男性)
- ・ 男性が偉そうに「おい」「おまえ」とか言う。封建的で今どきあり得ないくらい古い。(40 代女性)
- ・ しきたりが根強い(60 代女性)
- ・ 集落の会で発言したら「女ぐむんぬ」と言われたことがあった。(60 代女性)
- ・ 特に高齢の男性は女性蔑視の傾向にあり、接待の場に女性を出すことを当たり前と思っている。(60 代女性)
- ・ 様々なお祝いなどの席は男性中心で、女性は別部屋で集まっている。(60 代男性)
- ・ 地域コミュニティでは男性の意見を重視していることが多い。(70 代女性)
- ・ 各行事で女性が行う仕事の負担が大きい。(70 代女性)

■自治会や PTA などの地域活動の場 (7 件)

- ・ 婦人会の活動の負担が多すぎる。(40 代女性)
- ・ 地域行事で婦人会は料理、掃除(事前・事後)を担当し、座れない、料理を食べられない、会によっては会費も取られる。男性は片付け程度はするが、酒を飲み、座って料理を食べる。男尊女卑を感じ、住み続けたいと思えない。乳幼児がいる時期でも夜の集まりに夫がかり出されることが多く、母親が見ていけばいいという考えが定着。とてもしんどい。(40 代女性)
- ・ 婦人会や地女連は、男女が平等に社会参加できるよう規約を変更したり、名称を変えるべき。(40 代男性)
- ・ 役員や会長を男性に押しつけられる。(50 代男性)
- ・ 町内の区長等は男女で活動している。(70 代男性)
- ・ 地域の集い(祝・会合・作業等)は男性が主。(80 歳以上女性)
- ・ 各種団体の役員選出で「男の人でなければいけない」という女性の声が多い。女性の側にも問題がある。(80 歳以上男性)

■その他 (17 件)

- ・ そもそも平等について話し合っていることが、平等に日常を過ごすことができていない現状を表しているように思う。(10 代男性)
- ・ 女性の立場は下に見られがち。(30 代女性)
- ・ 日常的に男尊女卑を感じる場面が未だ多い。(30 代女性)
- ・ 法律等で仕方なくても男女でしか分けられない時点で不平等。男女ではなく一個人として様々な選択が可能に。(30 代男性)
- ・ 高年齢層ほど男女差別の傾向が強く残っている。(40 代男性)
- ・ 地域の中では女性の地位はまだまだで、不平等。(50 代女性)
- ・ 問3(女性が仕事を持つこと)の質問があること自体不平等と感じる。(50 代女性)
- ・ 近年は女性が優遇されすぎているように感じる。(50 代男性)
- ・ 女性議員数や会社の女性役員の数などは、世界の中で日本は下位にある。(70 代女性)
- ・ 女性は行うことが多く、男性より生きていく上で大変で、男に生まれれば良かったと思う。(年代不明女性)

2 固定的な性別役割分担意識について

(1) 性別による固定的な役割分担に対する考え方

ア 総計

「男性(夫)は外で働き、女性(妻)は家庭を守るべきである」といった性別を理由に役割を固定的にわけ
る考え方について聞いたところ、「反対」(37.4%)と「どちらかという反対」(35.3%)を合わせた『否定』と
回答した割合が72.7%、「どちらかという賛成」(22.3%)と「賛成」(3.5%)を合わせた『肯定』が25.9%。

イ 性別、性・年代別

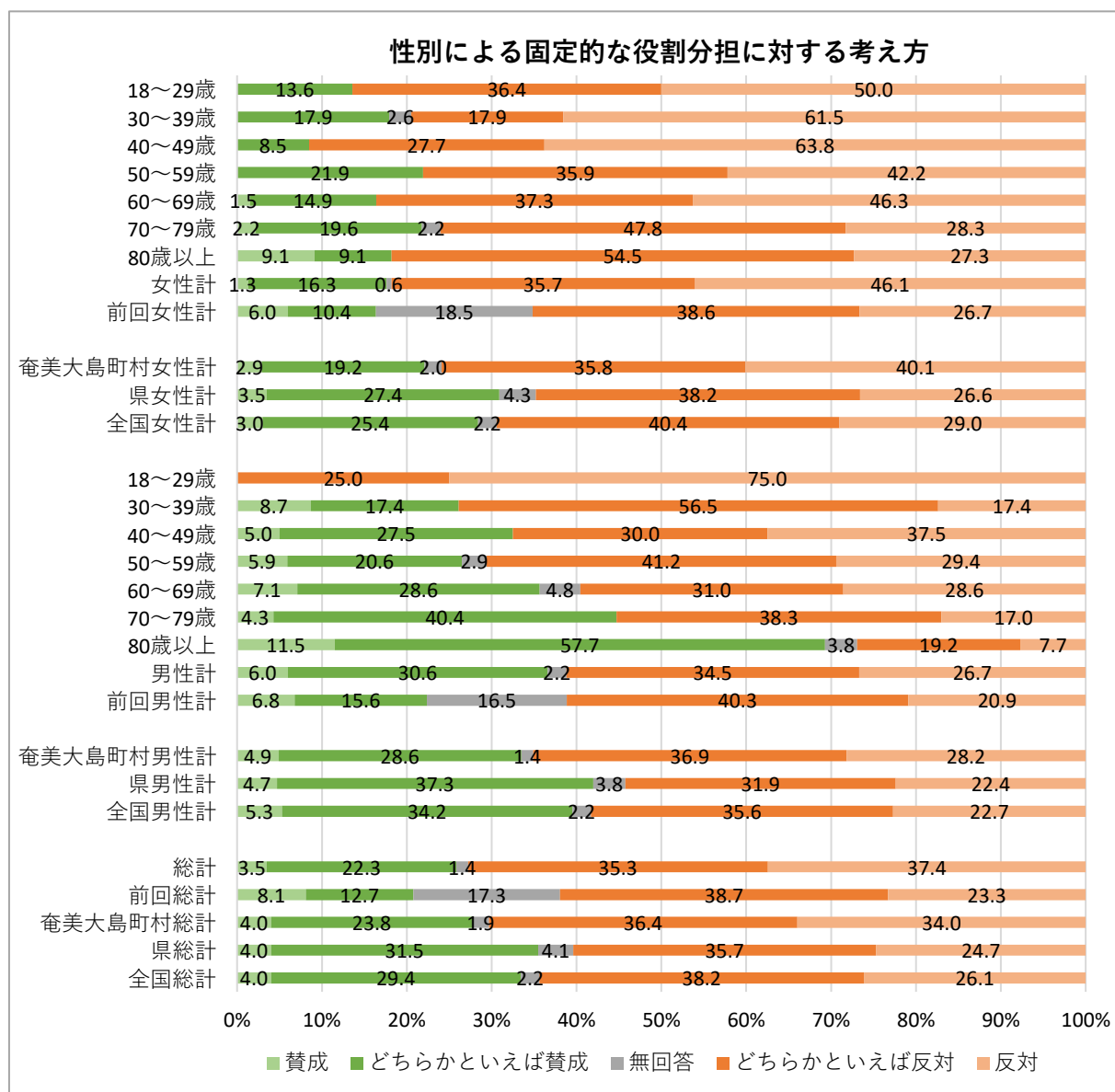
『否定』の割合は、女性は8割以上、男性は6割以上で、うち「反対」は、特に30・40代女性と29歳以下の男性が高い
(63.8%、61.5%、75.0%)。男性は年代が高いほど『肯定』の割合が高くなる傾向にあり、80歳以上では約7割。

ウ 前回との比較

男女とも「賛成」と回答した割合は低下し、「どちらかといえば賛成」と「反対」と回答した割合が上昇。

エ 奄美大島町村・県・全国との比較

- ・ 奄美大島町村と比較すると、女性は『否定』と回答した割合が、男性は『肯定』と回答した割合が高い。
- ・ 県及び全国と比較すると、男女とも『否定』と回答した割合が高く、『肯定』が低い。女性の方が差が大きい。



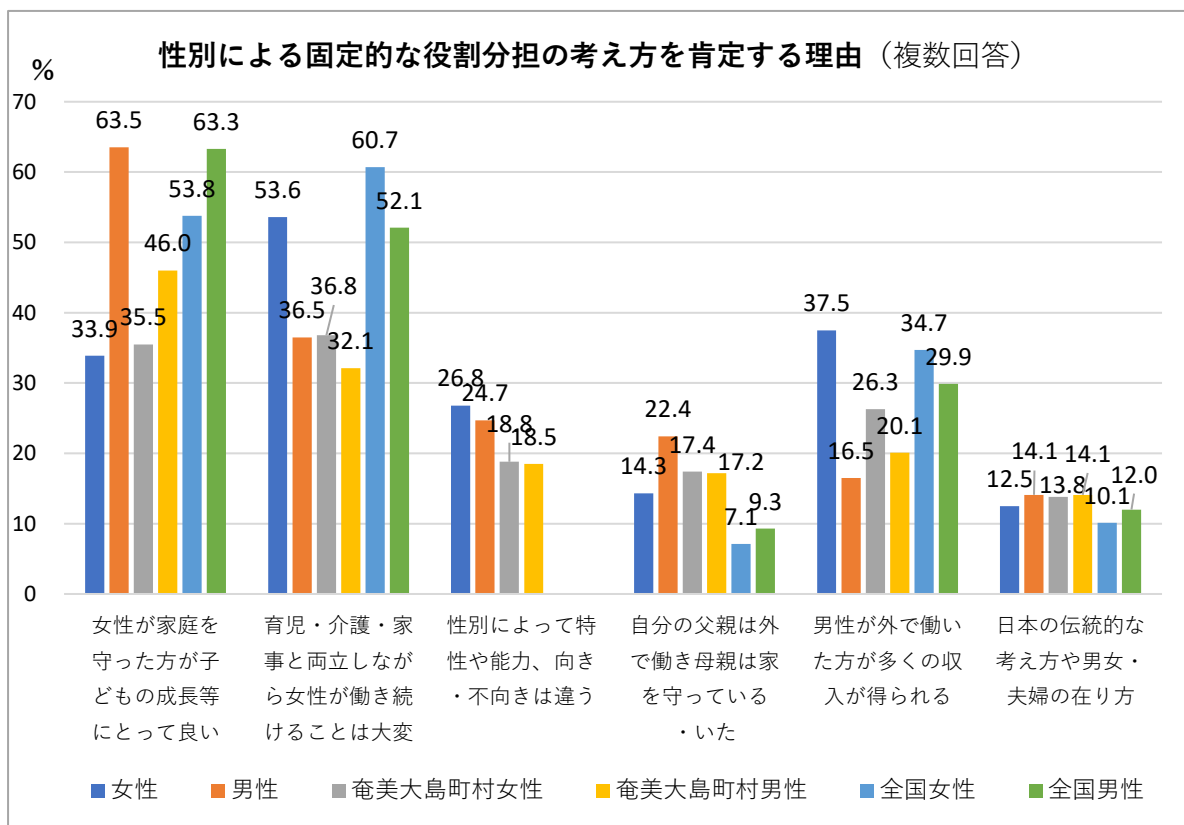
(2) 性別による固定的な役割分担を肯定する理由

ア 性別、性・年代別（性・年代別のグラフ省略）

- 性別を理由に役割を固定的にわけける考え方に「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した人にその理由を聞いたところ、女性は『女性が働き続けることは大変』(53.6%)、男性は『子どもの成長等にとって良い』(63.5%)と回答した割合が高い。
- 女性は、『女性が働き続けることは大変』と回答した割合が幅広い年代で高く、『子どもの成長等にとって良い』は70代以上で高い。
- 『子どもの成長等にとって良い』と回答した割合は、80歳以上の男性が最も高い(72.2%)。
- 『性別によって特性や能力は違う』と回答した割合は、40・50代の男性が高く、4割を超えている。

イ 奄美大島町村・全国との比較

- 奄美大島町村と比較すると、女性では、『女性が働き続けることは大変』と『収入が多く得られる』と回答した割合が高く(16.8ポイントと11.2ポイント)、男性では、『子どもの成長等にとって良い』と回答した割合が高い(17.5ポイント)。
- 全国と比較すると、女性では『子どもの成長等にとって良い』、男性では『女性が働き続けることは大変』と『収入が多く得られる』と回答した割合が低い一方、『親がそう(だった)』が高い。



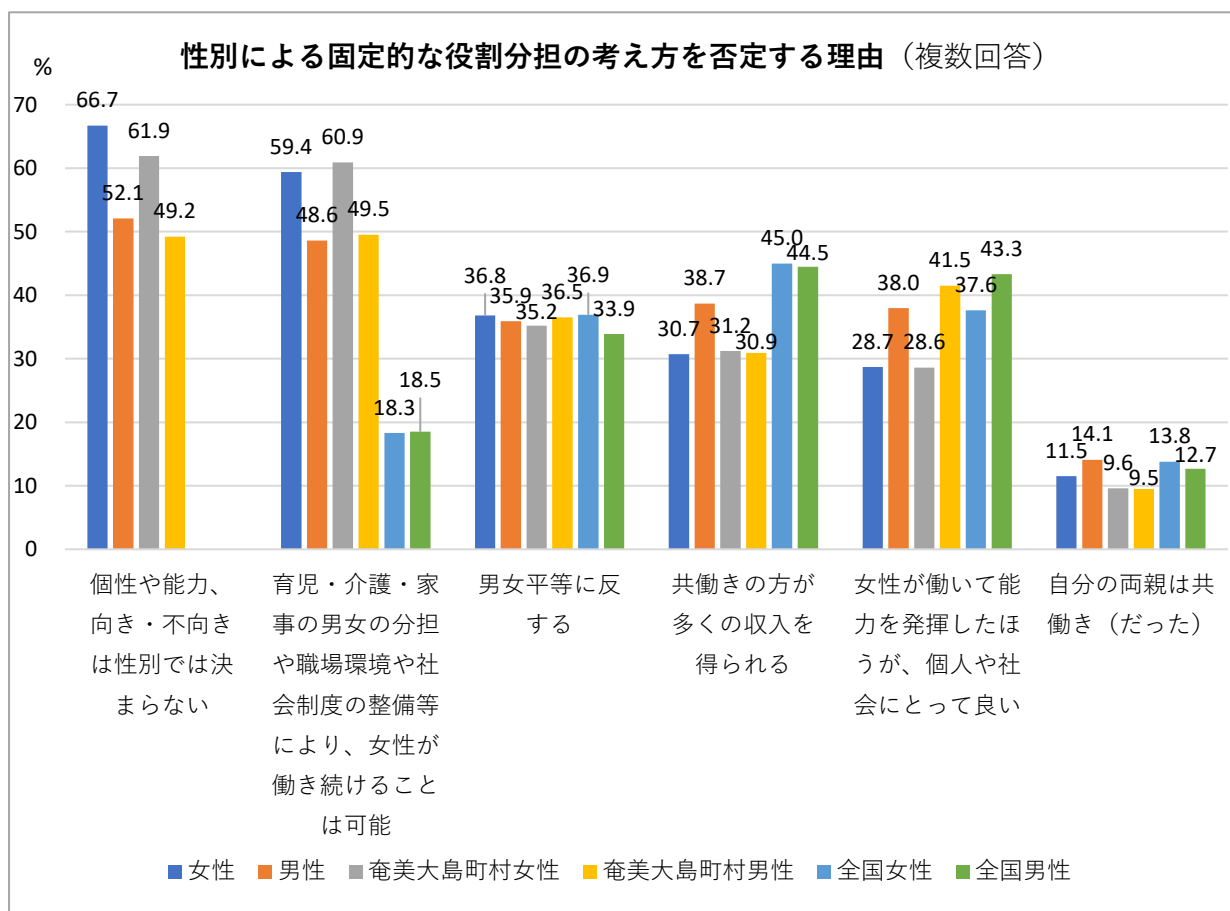
(3) 性別による固定的な役割分担を否定する理由

ア 性別・性・年代別（性・年代別のグラフ省略）

- 性別によって固定的に役割をわけろ考え方について、「反対」「どちらかといえば反対」と回答した人にその理由を聞いたところ、『個性や能力は性別では決まらない』と回答した割合が最も高く（女性66.7%、男性52.1%）、30代女性で8割を超えている。次いで『男女の分担や職場環境・制度の整備等で女性が働き続けることは可能』が女性59.4%、男性48.6%。
- 男性では、『共働きの方が収入が多い』と『女性が能力を発揮したほうが個人にも社会にも良い』と回答した割合が4割近くで、女性より高く、40代では、それらと『男女平等に反する』と回答した割合がそれぞれ5割を超えている。

イ 奄美大島町村・全国との比較

- 奄美大島町村と比較すると、ほぼ同様の傾向だが、男性で『共働きの方が収入が多い』と回答した割合が7.8ポイント高い。
- 全国と比較すると、『男女の分担や職場環境・制度の整備等で女性が働き続けることは可能』と回答した割合が高い一方、『共働きの方が収入が多い』と『女性が能力を発揮したほうが個人にも社会にも良い』は低い。



「その他意見」(22件)の主なもの

- 個人の選択・自由（家庭の状況や個人の能力・得意、夫婦・家庭で決めるなど）（10～50代男性、30・40・60代女性）
- 人生の豊かさ・自己成長（社会との接点、社会参加、好きな仕事）（20・30・50代女性）
- 今までそのような考えを聞いたこともない。（40代女性）
- 共に働き育児を担わないと男性は育児の大変さがわからない。（40代女性）
- 収入の安定（男性だけの収入では生きていけない、共働きでも生活が苦しい、年金だけでは生活できない、島の収入が少なく支出が多い、夫婦双方に死亡、病気等どんなことがあっても家庭的に安定、奄美は離婚が多いから手に職は大切）（40代男性2、40代・60代女性各2）
- 男尊女卑は時代遅れ！（50代男性）
- 今までのあたりまえを考え直す時代（70代女性）

(4) 女性が職業を持つことに対する考え

ア 総計

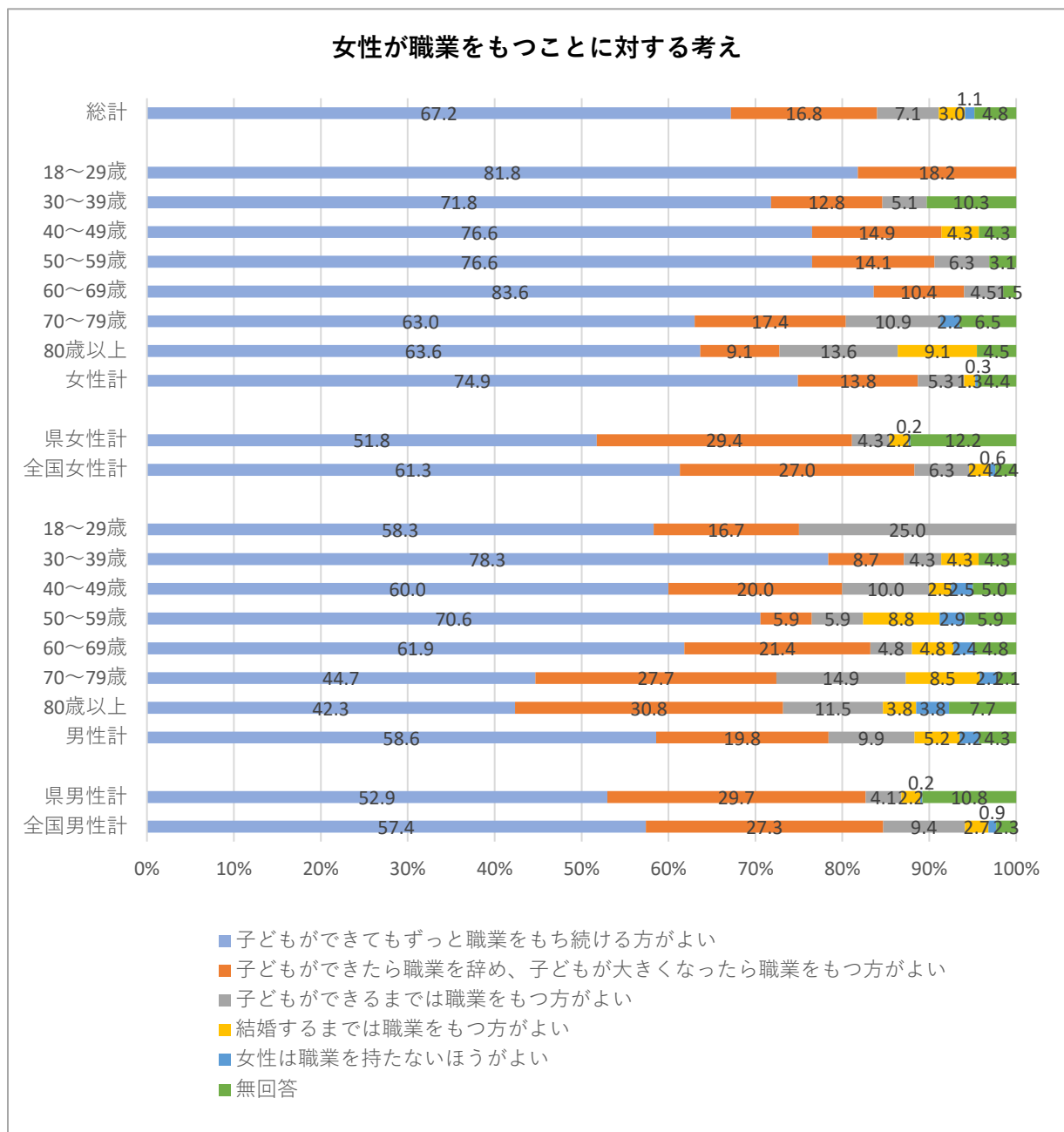
女性が職業を持つことについて訊いたところ、『子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい』と回答した割合が67.2%、『子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら職業をもつ方がよい』が16.8%。

イ 性別、性・年代別

『子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい』と回答した割合は、女性は74.9%、男性は58.6%。女性は29歳以下と60代で8割を超え、男性は30代が78.3%と最も高い一方、29歳以下、40代及び70代以上の男性は『子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら職業をもつ方がよい』と『子どもができるまでは、職業をもつ方がよい』と回答した人を合わせると4割を超えている。

ウ 奄美大島町村・県・全国との比較

- ・ 奄美大島町村の調査と比較すると、大きな差はみられない。(グラフ省略)
- ・ 県及び全国と比較すると、男女とも『子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい』と回答した割合が高い。



3 家庭生活・地域活動について

(1) 家事、育児、介護・看護、地域活動における夫婦の役割分担

ア 性別

- ・ 配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいる人に家庭生活や地域活動の参加について夫婦の分担を聞いたところ、男女とも「家事」、「育児」、「介護・看護」で「妻が多く分担」と回答した割合が最も高く、男女で夫婦の役割分担の状況についての認識はほとんど変わらない。
- ・ 「地域活動」については、「妻が多く分担」と回答した割合が女性は44.6%、男性は27.1%、「夫が多く分担」と回答した割合が女性は15.7%、男性は38.6%。

イ 前回との比較

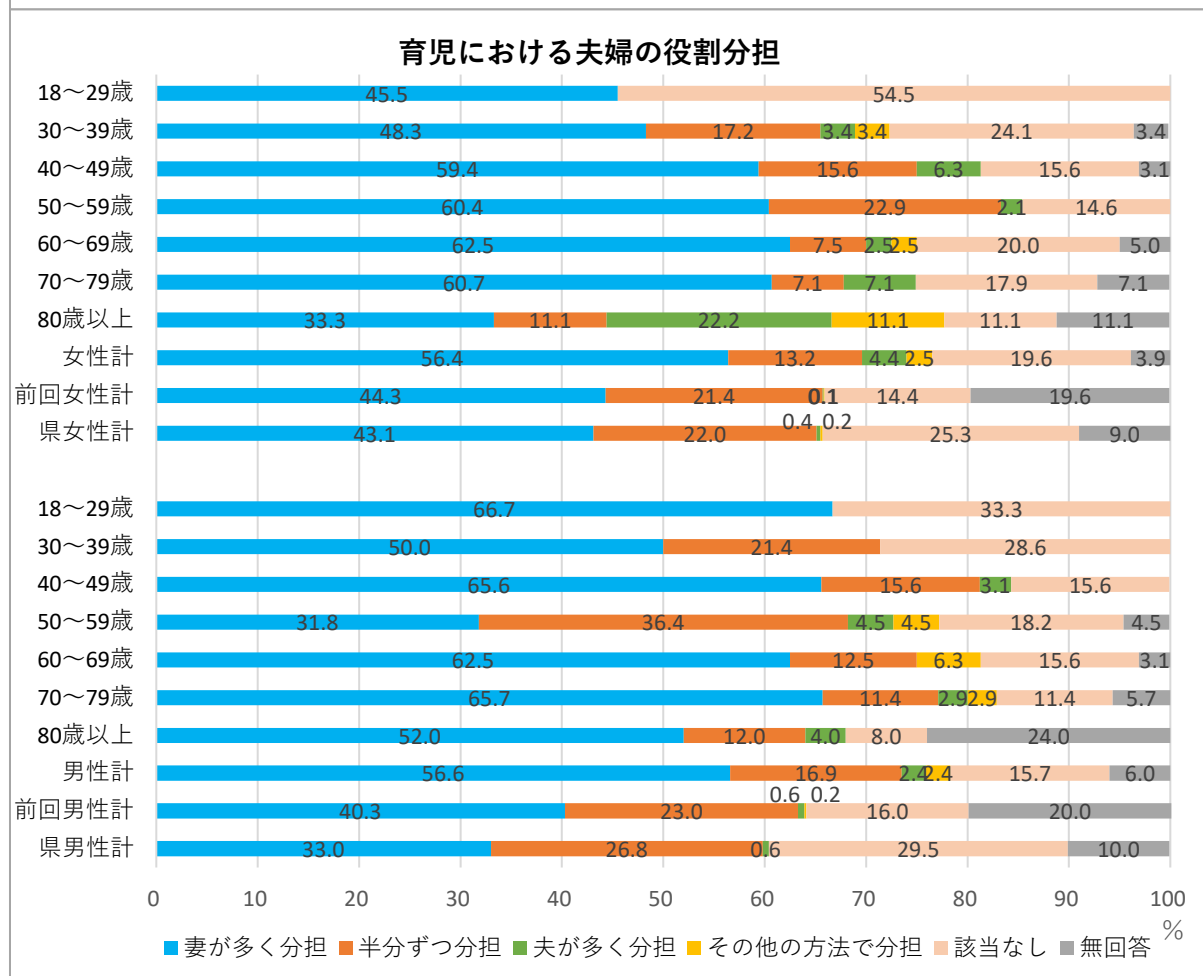
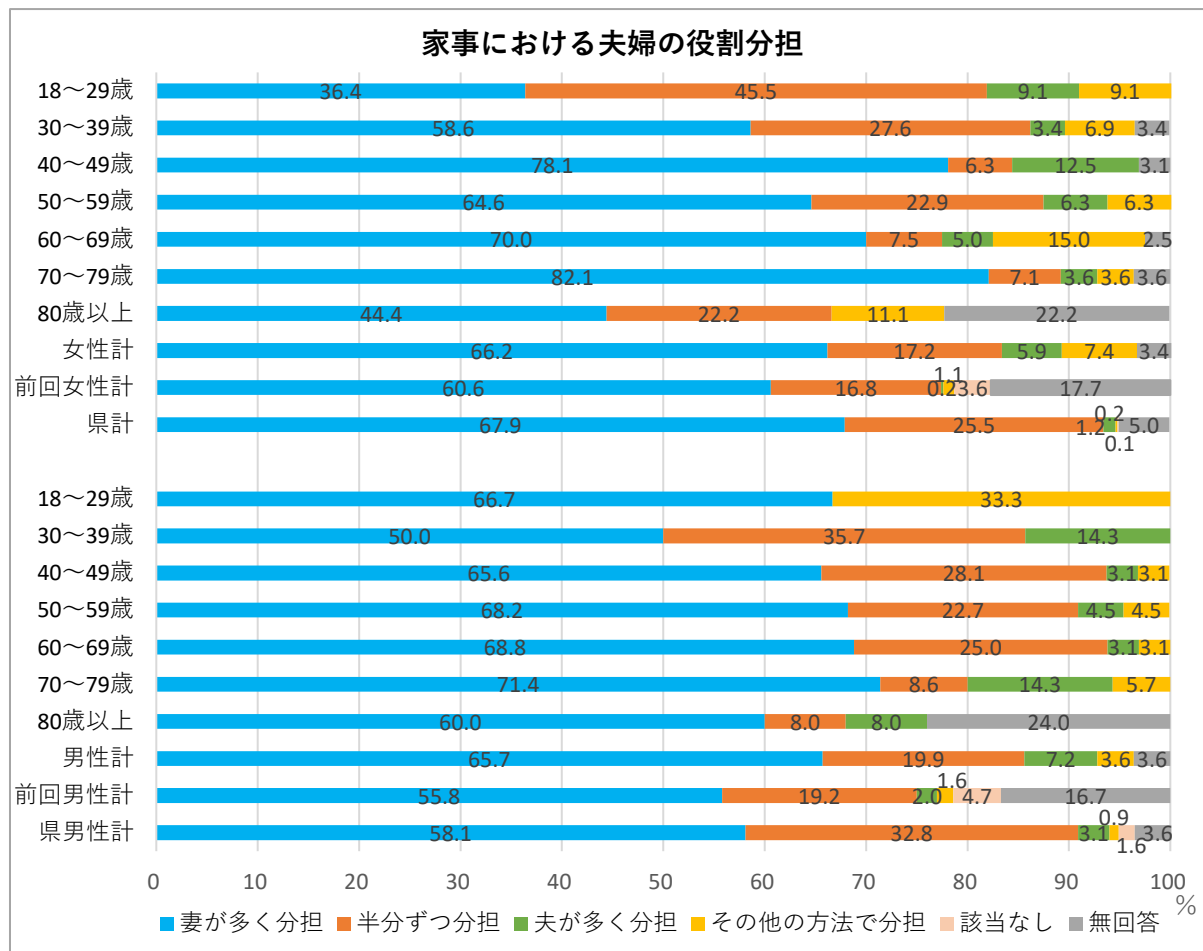
男女とも、すべての項目で「妻が多く分担」と回答した割合が上昇し、女性の「家事」以外は「半分ずつ分担」と回答した割合が低下。最も変動が大きかったのは「地域活動」。

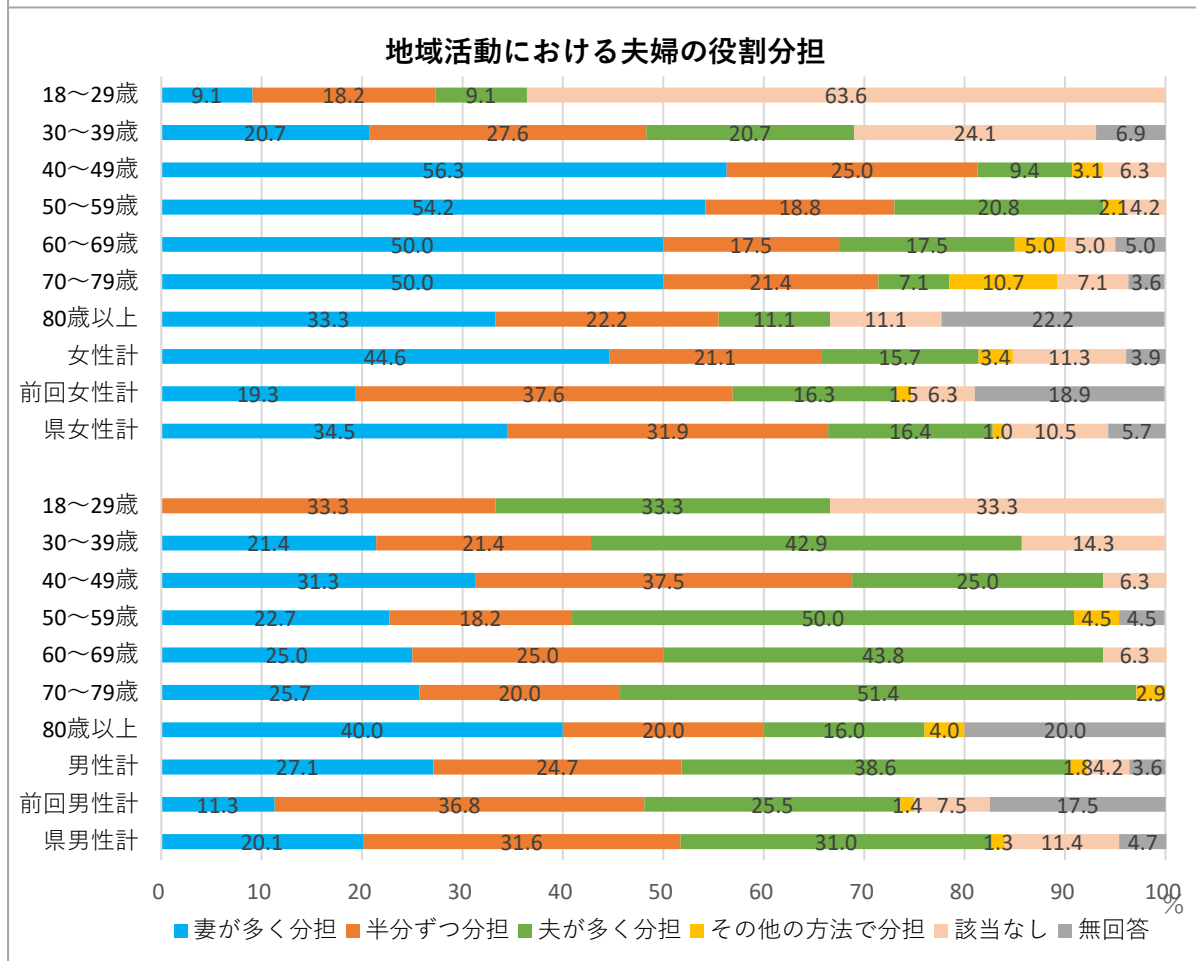
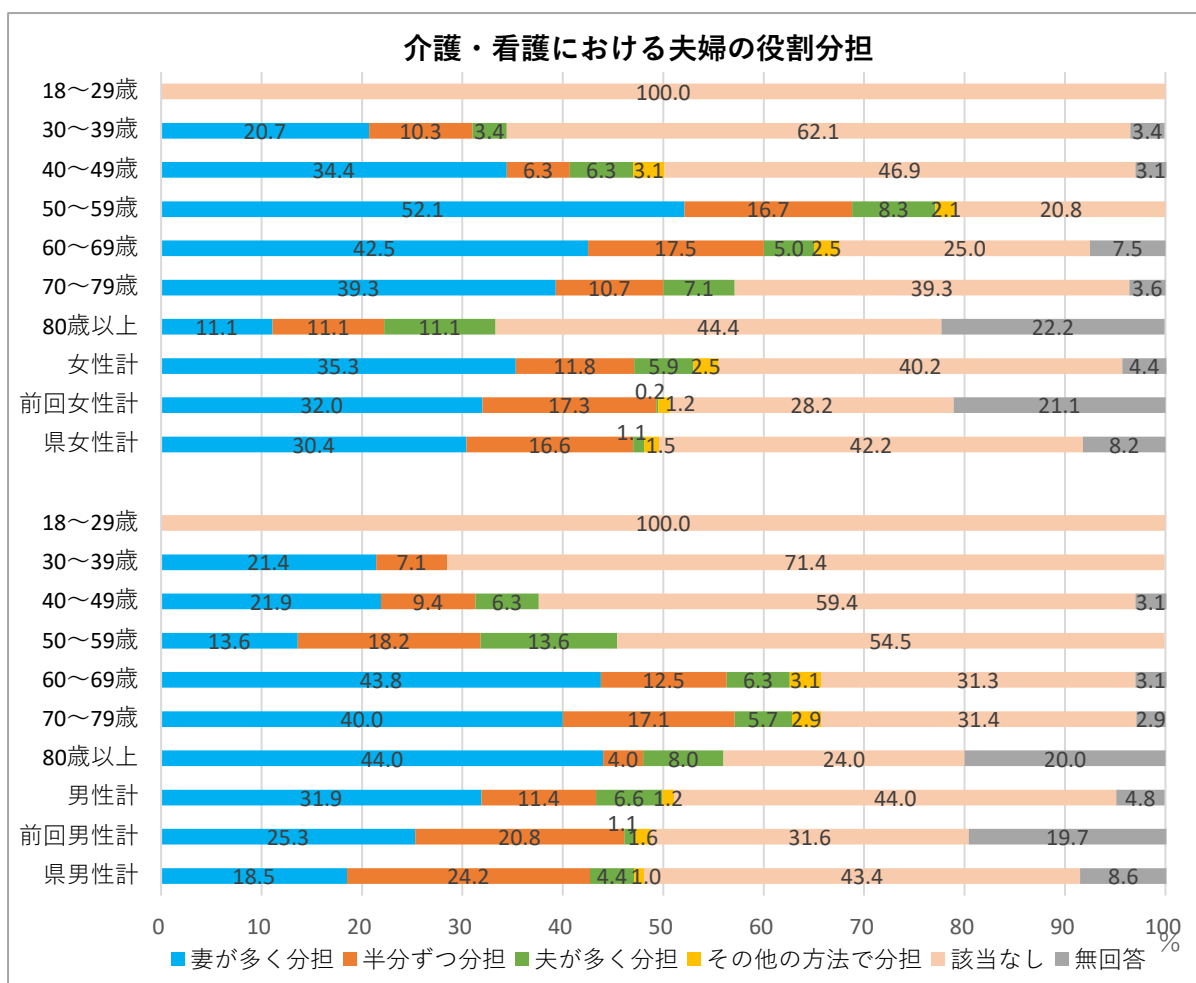
ウ 奄美大島町村・県との比較

- ・ 奄美大島町村と比較すると、ほぼ同様の傾向だが、「地域活動」について、女性が「妻が多く分担」と回答した割合が高い。
- ・ 県と比較すると、「妻が多く分担」と回答した割合が高く、「半分ずつ分担」と回答した割合が低い。

エ 性・年代別、性・就労状況別、性・職業別（就労状況別と職業別のグラフ省略）

- ・ 男女とも、「家事」、「育児」、「介護・看護」について、「妻が多く分担」と回答した割合が、ほぼすべての年代で高い。特に60～70代で高く、30代以下で低い傾向。
- ・ 「家事」について「半分ずつ分担」と回答した割合が高いのは、29歳以下の女性と30代男性で、3割を超える。
- ・ 「育児」と「介護・看護」について「半分ずつ分担」又は「夫が多く分担」と回答した割合が高いのは、（育児や介護・看護の必要な家族等がないため「該当なし」と回答した人の割合を勘案すると）50代男性で実質5割を超える。
- ・ 「地域活動」については、40代以上の女性は「妻が多く分担」、50～70代の男性は「夫が多く分担」と回答した割合が高い。
- ・ 「家事」については、「夫のみ仕事がある」女性と「どちらも仕事がない」男性、「育児」については「夫のみ仕事がある」男性で、「妻が多く分担」と回答した割合が7割を超えている。
- ・ 「非正規雇用者」の男性が「介護・看護」を「半分ずつ分担」と回答した割合が「妻が多く分担」より高い。「家事」では、「自営業者」の女性の「妻が多く分担」と回答した割合(81.3%)が高い。





(2) 男性が家庭や地域活動に積極的に参加するために必要なこと

ア 性別

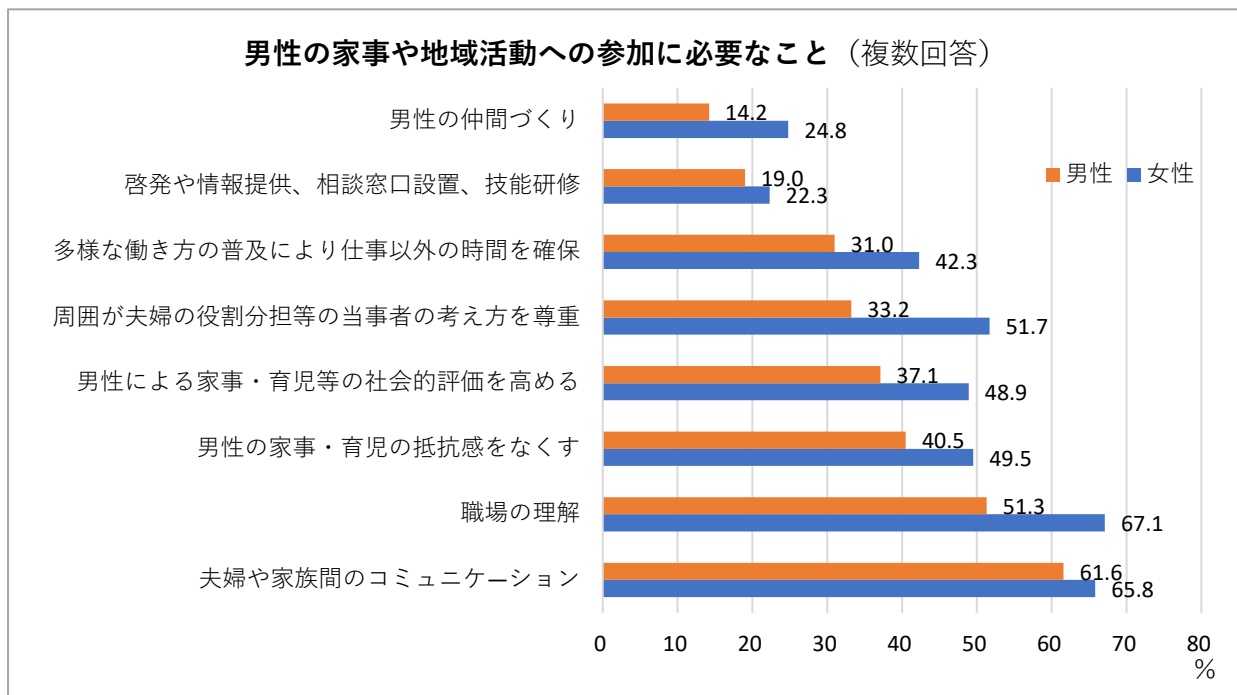
- ・ 男性が家事や育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについて聞いたところ、女性では、『職場の理解』(67.1%)と回答した割合が最も高く、次いで『夫婦や家族間のコミュニケーション』(65.8%)、『周囲が当事者の考え方を尊重』(51.7%)、『男性の家事・育児の抵抗感をなくす』(49.5%)、『社会的評価を高める』(48.9%)。男性では、『夫婦や家族間のコミュニケーション』(61.6%)が最も高く、次いで『職場の理解』(51.3%)。
- ・ 女性はすべての項目で男性より割合が高く、特に『周囲が当事者の考え方を尊重』と『職場の理解』の差が大きい。

イ 奄美大島町村・県・全国との比較 (グラフ省略)

- ・ 奄美大島町村と同様の傾向にある。
- ・ 県と比較すると、『啓発や情報提供、相談、研修』以外の項目で回答した割合は高く、特に『周囲が当事者の考え方を尊重』(26.7 ポイント)、『社会的評価を高める』(23.3 ポイント)が高い。
- ・ 全国と比較すると、ほぼ同様の傾向だが、『男性の家事・育児の抵抗感をなくす』と回答した割合が15.5 ポイント低い。

ウ 性・年代別、性・職業別 (グラフ省略)

- ・ 50代以上の女性と50・70代男性で『夫婦や家族間のコミュニケーション』、30代以下と50代の女性、40・50代男性で『職場の理解』、50代男女で『男性の家事・育児の抵抗感をなくす』を回答した割合が、7割前後で高い。
- ・ 『男性が家事・育児をすることへの女性の抵抗感をなくす』と回答した割合は、60代女性が突出して高い。(41.8%)
- ・ 「自営業者」の女性が『夫婦や家族間のコミュニケーション』『職場の理解』及び『周囲が当事者の考え方を尊重』と回答した割合は8割を超え、「非正規雇用者」の男女は『職場の理解』(77.0%)が高い。



「その他意見」(15件)のうち主なもの

- ・ 「自分の家庭ではこうしています。」という強い自己表示をする。(10代男性)
- ・ 女性が担っている家事解してもらい、できる家事を見せる。(30代女性)
- ・ 大変そう、良くない、こう思うなど、求めていない意見が最もストレスになる。第3者が個人口を挟まない。(30代女性)
- ・ 男の子にも家事の手伝いを経験、小学校の授業で男も家事・育児当たり前の教育(30代女性2、60代女性)
- ・ 育児のストレスに対する夫や社会の理解(40代女性)
- ・ 育児参加のための公的給付補助、収入を向上させ時間的余裕をつくる、男女平等の賃金UP(40代女性、30・40代男性)
- ・ 男性の中にも女性の輪の中に入りづらい人もあるので、そういう空気感を工夫。(50代女性)
- ・ 育休・介護休の取得(上司が積極的に取得。育休を1ヶ月取得。まず自治体がモデルになる。)(50・70代女性)
- ・ 男性が古い考えを捨てる。(70代男性)

4 子育てに関する考え方について

ア 総計

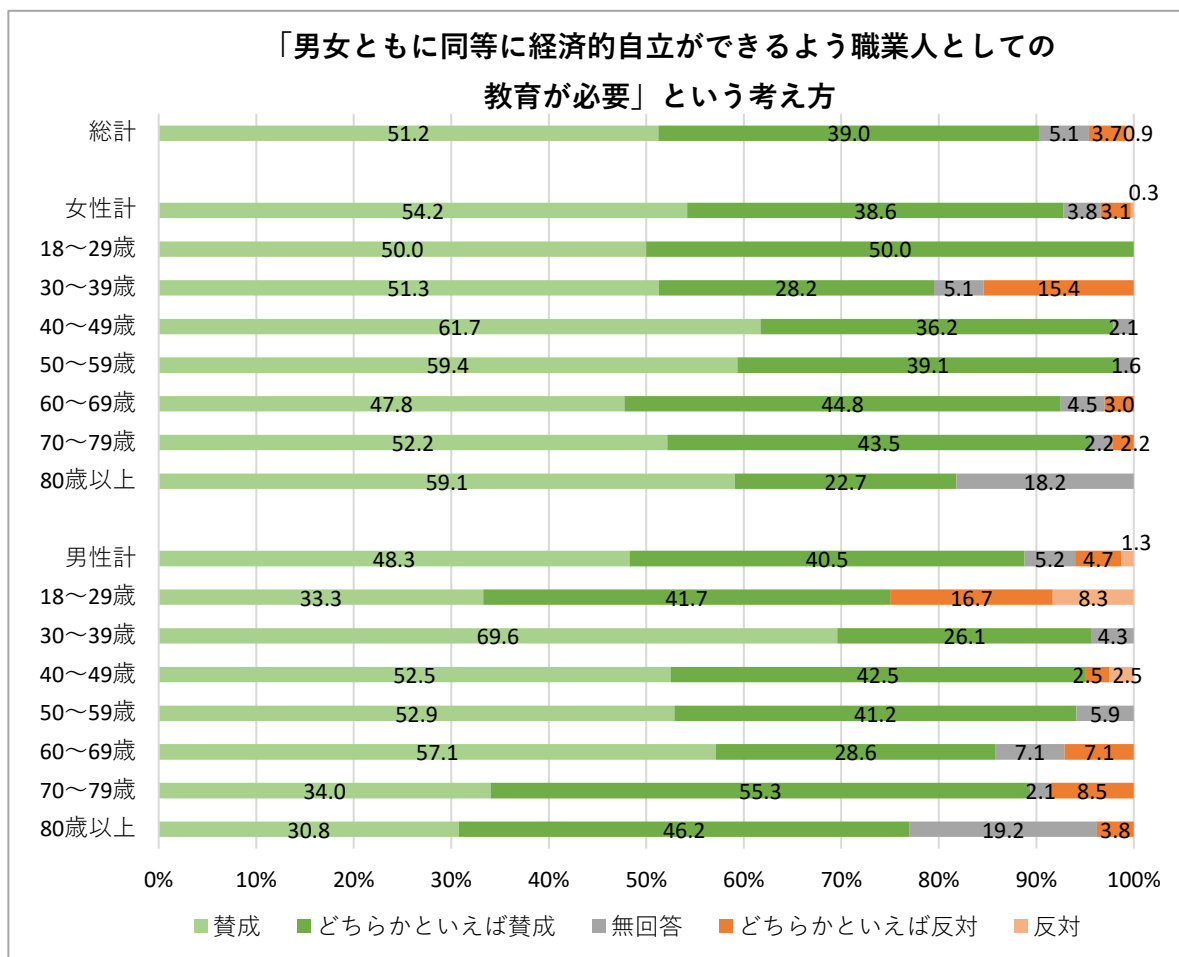
- ・ 子育ての考え方について訊いたところ、『男女同等に経済的自立ができるための教育』（以下『経済』という。）『男女ともに家事など生活に必要な技術の習得』（以下『生活』という。）については、『賛成』又は「どちらかといえば賛成」（以下『賛成計』という。）と回答した割合がともに9割超。『生活』の方が『経済』より『賛成』と回答した割合が高い。
- ・ 『男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる』考え方（以下『性別で分けた育て方』という。）については、『賛成計』は44.3%、『反対』又は「どちらかといえば反対」（以下『反対計』という。）と回答した割合は51.2%。

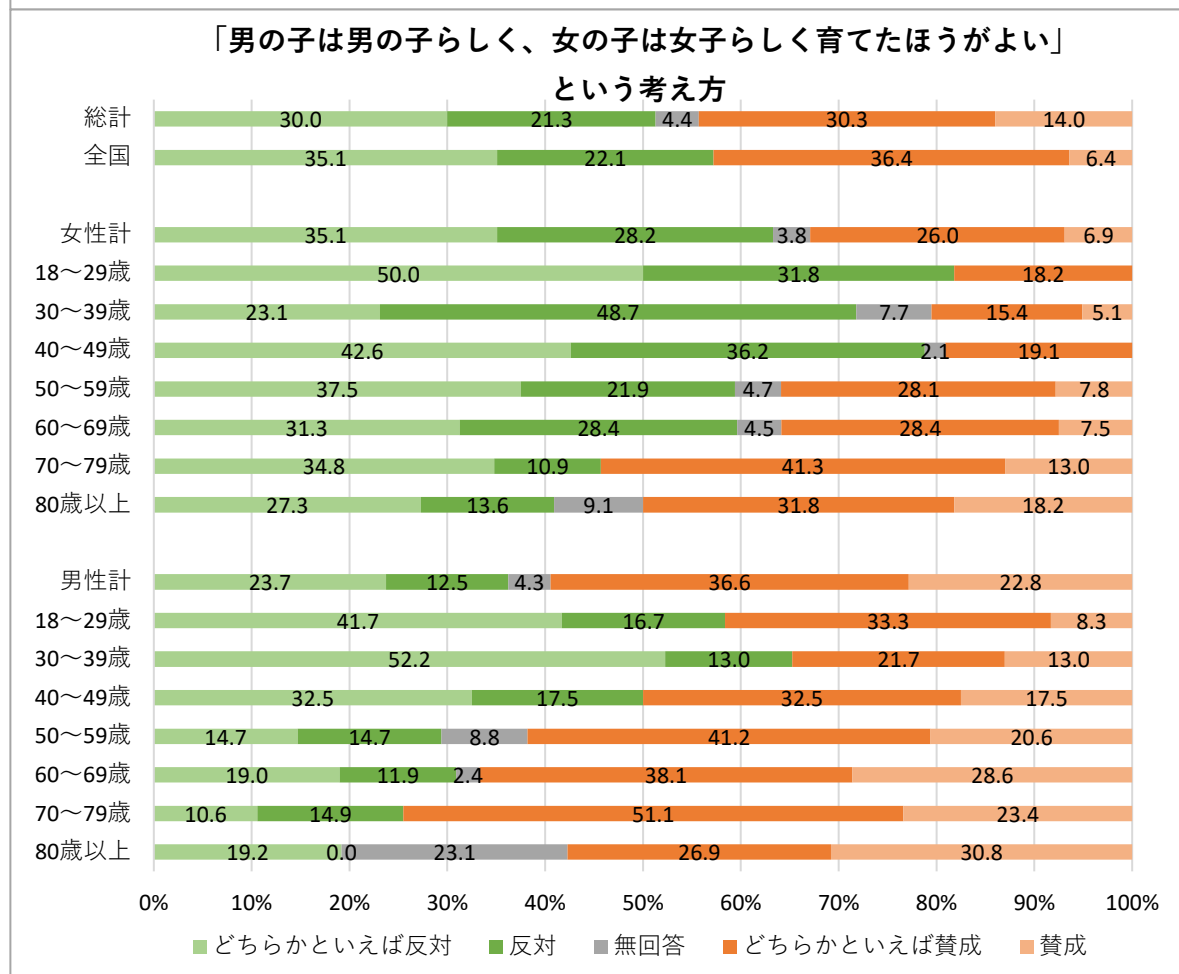
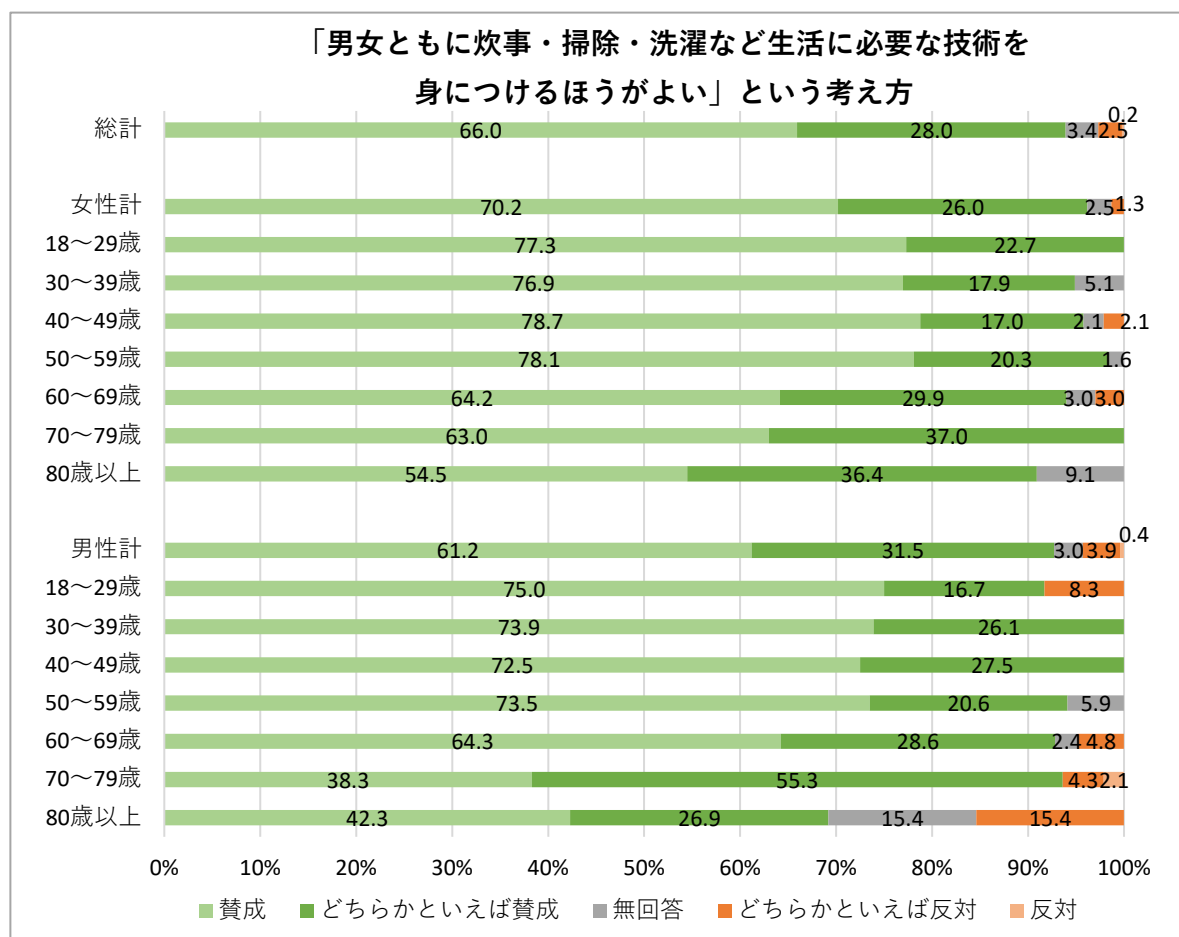
イ 奄美大島町村・全国との比較

- ・ 奄美大島町村と比較すると、『経済』と『生活』についてはほぼ同様の傾向。『性別で分けた育て方』については、男女とも『反対計』の割合が高い。（グラフ省略）
- ・ 『性別で分けた育て方』について全国と比較すると、『賛成』と回答した割合が高く、「どちらかといえば反対」が低い。

ウ 性別、性・年代別

- ・ 女性は、男性に比べて『経済』と『生活』について『賛成計』の割合が高い。
- ・ 『性別で分けた育て方』について、女性は『反対計』の割合(63.3%)が『賛成計』の割合(32.9%)より高いが、男性は『賛成計』の割合(59.5%)が『反対計』の割合(36.2%)より高い。
- ・ 『経済』について、『賛成』と回答した割合が最も高いのは30代男性(69.6%)、次いで40代女性、50代女性。
- ・ 『生活』について、『賛成』と回答した割合が最も高いのは40代女性(78.7%)で、50代以下の男女で7割を超えている。
- ・ 『性別で分けた育て方』について、『賛成』と回答した割合は年代が高いほど高い傾向にあり、50代以上の男性では『賛成計』の割合が『反対計』の割合を大きく上回る。
- ・ 『性別で分けた育て方』について、『反対』と回答した割合が最も高いのは30代女性(48.7%)。『反対計』は女性の29歳以下は81.8%、30・40代も7割を超え、男女とも若い年代ほど『反対』の傾向が強い。





5 職業生活について

職場における性別による格差の状況

ア 総計

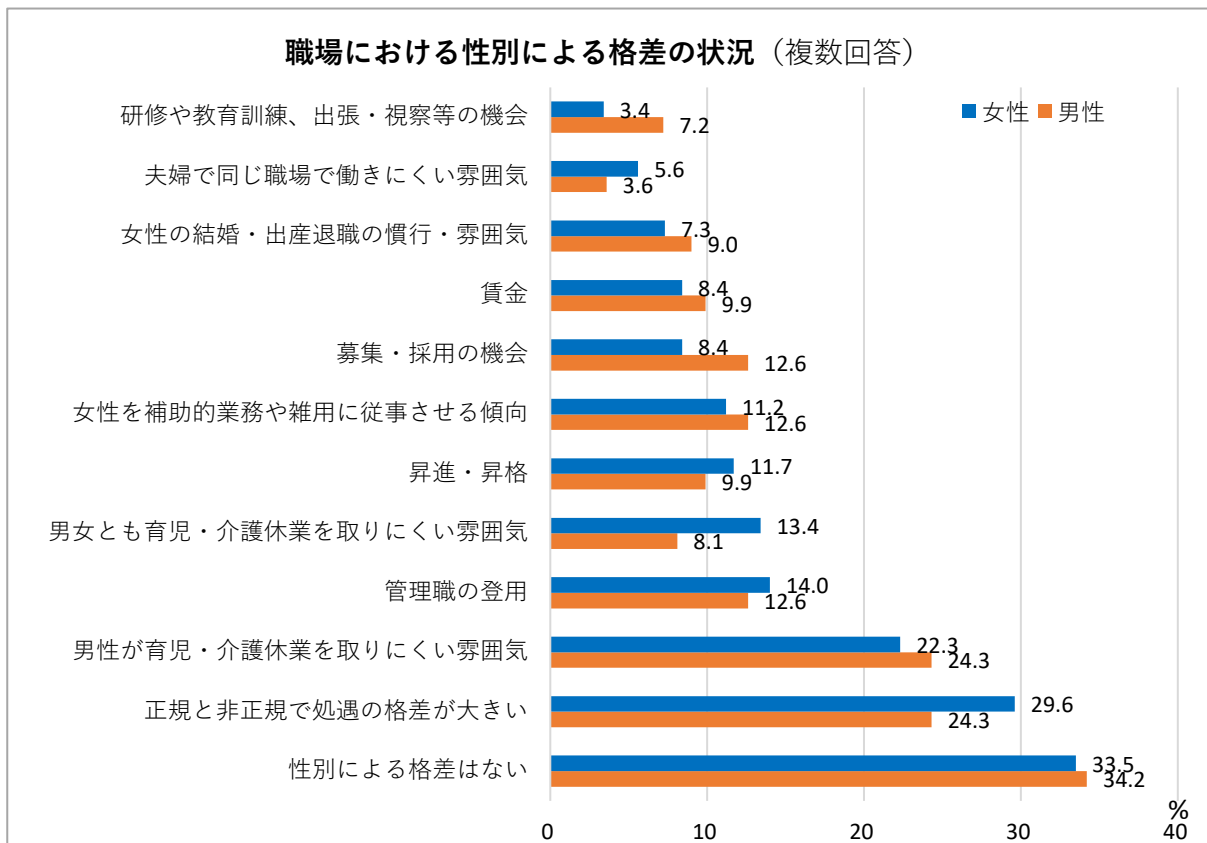
雇用されて仕事をしている人に職場における性別による格差について聞いたところ、『男女格差なし』(33.9%)と回答した割合が最も高く、次いで『正規と非正規による処遇の格差』(27.7%)、『男性が育児・介護休業を取得しづらい』(23.3%)。

イ 性別、性・年代別

- ・ 29歳以下の女性は、『男性が育児・介護休業を取得しづらい』(40.0%)、『女性の結婚・出産退職の慣行・雰囲気』(26.7%)、『女性に補助・雑用業務』(20.0%)と回答した割合がすべての性・年代で最も高く、『男女格差なし』と回答した割合は低い。
- ・ 『正規と非正規による処遇の格差』と回答した割合が高いのは、40・60代の女性(40.5%と40.0%)と60代の男性(36.8%)。
- ・ 『男女格差なし』と回答した割合が高いのは、50代の女性(45.1%)、30・50代と29歳以下の男性(47.4%、45.0%、44.4%)。
- ・ 50代男性は『男女格差なし』と回答した割合が高いものの、『男性が育児・介護休業を取得しづらい』(40.0%)、『管理職登用の男女格差』(25.0%)、『正規と非正規による処遇の格差』(30.0%)、『女性に補助・雑用業務』(20.0%)など男女の格差について回答した割合も他の性・年代に比べて高い。

ウ 奄美大島町村・県との比較（グラフ省略）

- ・ 奄美大島町村と比較すると、ほぼ同様の傾向。
- ・ 県と比較すると、『男女格差なし』と回答した割合が女性で低い(17.3ポイント)。また、『男性が育児・介護休業を取得しづらい』と回答した割合は、女性で13.6ポイント、男性で8.3ポイント高い一方、『賃金』では女性で4.8ポイント、男性で7.7ポイント低い。



職場における性別による格差の状況（複数回答）

単位：％

	正規と非正規で処遇の格差が大きい	男性が育児・介護休業を取りにくい雰囲気	管理職の登用	男女とも育児・介護休業を取りにくい雰囲気	昇進・昇格	女性を補助的業務や雑用に従事させる傾向	募集・採用の機会	賃金	女性の結婚・出産退職の慣行・雰囲気	夫婦で同じ職場で働きにくい雰囲気	研修や教育訓練、出張・視察等の機会	性別による格差はない
総計	27.7	23.3	13.4	11.3	11.0	11.6	9.9	8.9	7.9	4.8	4.8	33.9
女性計	29.6	22.3	14.0	13.4	11.7	11.2	8.4	8.4	7.3	5.6	3.4	33.5
18～29歳	13.3	40.0	13.3	20.0	13.3	20.0	6.7	0.0	26.7	0.0	6.7	20.0
30～39歳	19.4	29.0	19.4	16.1	9.7	19.4	12.9	6.5	6.5	12.9	3.2	29.0
40～49歳	40.5	21.6	10.8	2.7	13.5	13.5	8.1	10.8	2.7	8.1	2.7	35.1
50～59歳	25.5	23.5	15.7	13.7	11.8	5.9	7.8	7.8	5.9	3.9	2.0	45.1
60～69歳	40.0	5.7	8.6	17.1	11.4	5.7	8.6	14.3	5.7	2.9	5.7	31.4
70～79歳	14.3	14.3	28.6	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
80歳以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性計	24.3	24.3	12.6	8.1	9.9	12.6	12.6	9.9	9.0	3.6	7.2	34.2
18～29歳	11.1	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0	44.4
30～39歳	15.8	15.8	5.3	0.0	5.3	10.5	5.3	10.5	10.5	10.5	5.3	47.4
40～49歳	20.6	29.4	20.6	8.8	14.7	14.7	14.7	8.8	11.8	2.9	11.8	26.5
50～59歳	30.0	40.0	25.0	20.0	15.0	20.0	15.0	15.0	10.0	0.0	5.0	45.0
60～69歳	36.8	21.1	0.0	5.3	5.3	10.5	15.8	10.5	0.0	0.0	10.5	21.1
70～79歳	33.3	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	11.1	22.2	0.0	0.0	22.2
80歳以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

6 ジェンダーに起因する暴力について

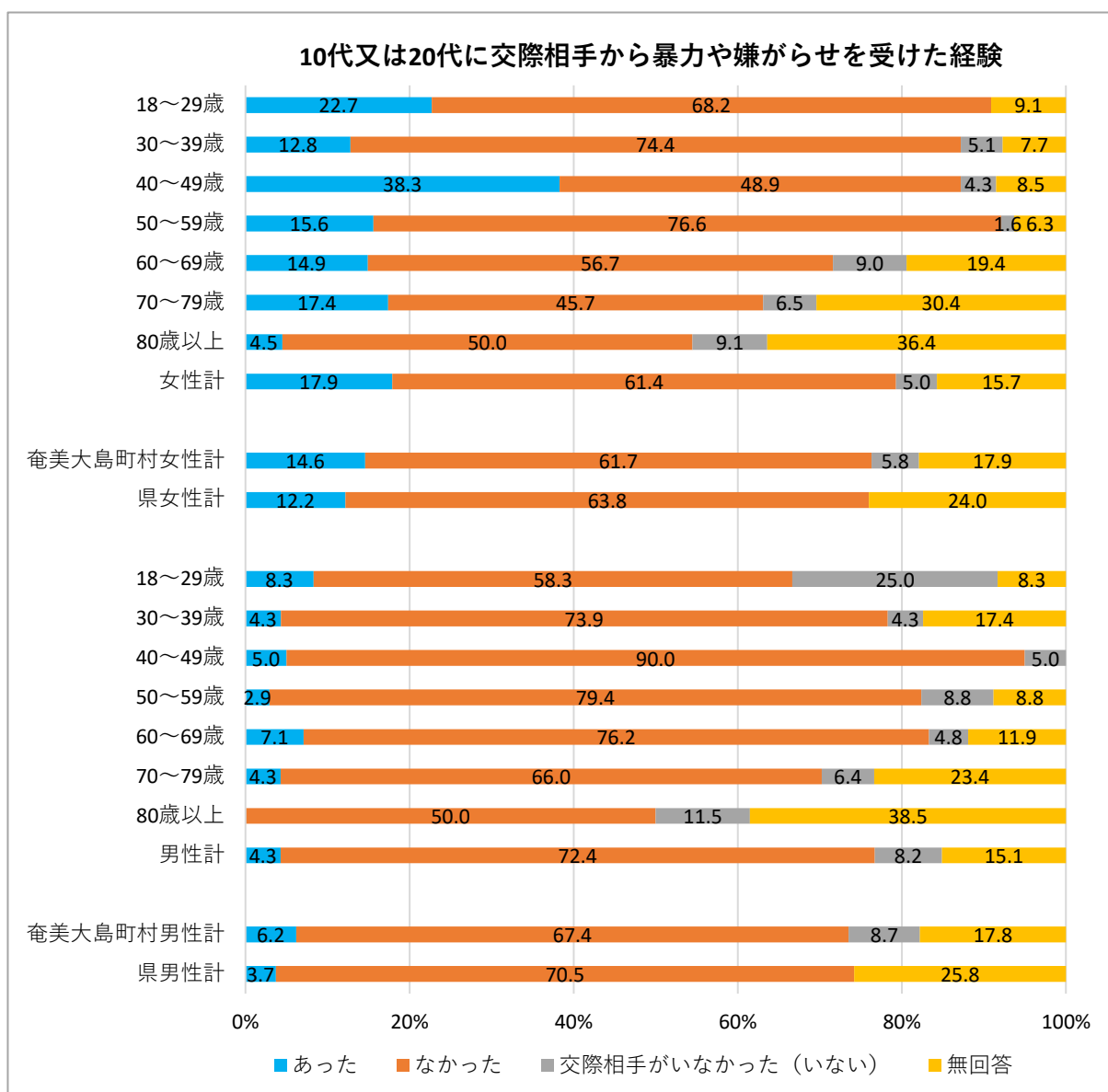
(1) 交際相手や元交際相手から暴力を受けた経験

ア 性別・性・年代別

- ・ 10代又は20代に交際相手や元交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験について訊いたところ、女性では『身体的暴力』、『精神的暴力』、『性的暴力』の『いずれかの暴力』を受けた経験は17.9%。
- ・ 男性では、いずれの暴力についても、「あった」と回答した割合は女性より低い。
- ・ 『いずれかの暴力』について、「あった」と回答した割合が最も高いのは40代の女性(38.3%)、次いで29歳以下の女性(22.7%)。
- ・ 男女とも50代以降は年代が高くなるほど「無回答」の割合が高くなり、80歳以上で最も高い。(女性36.4%、男性38.5%)。

イ 奄美大島町村・県との比較

- ・ 奄美大島町村と比較すると、傾向はほぼ同様。
- ・ 県と比較すると、『いずれかの暴力』について「あった」と回答した割合は、男女とも高くなっている。



(2) 配偶者や元配偶者からの暴力を受けた経験

ア 性別

- ・ 結婚経験者（事実婚を含み、未婚者を除く。）に配偶者や元配偶者から暴力を受けた経験について訊いたところ、男女とも『身体的暴力』、『精神的暴力』、『性的暴力』の順に「何度もあった」及び「1、2度あった」と回答した割合が高い。それらのいずれかの暴力を受けた経験が「何度もあった」と回答した割合は、女性で14.7%、男性で3.6%。
- ・ 「無回答」の割合が高く、特に女性の『精神的暴力』と『性的暴力』の無回答者の割合が高い(44.2%、46.5%)。暴力を受けた経験のある割合は、調査結果より高い可能性があると思われる。(前回、奄美大島町村・県・全国との比較は困難)

イ 性・年代別

(ア) 身体的暴力

- ・ 「無回答」の割合が高いのは、女性は50代(37.9%)、男性は30代(42.1%)と50代(42.9%)。
- ・ 「何度もあった」と回答した割合が高いのは70代女性(19.5%)、40代女性(15.8%)。「1、2度あった」を合わせると、それぞれ34.1%と23.7%。

(イ) 精神的暴力

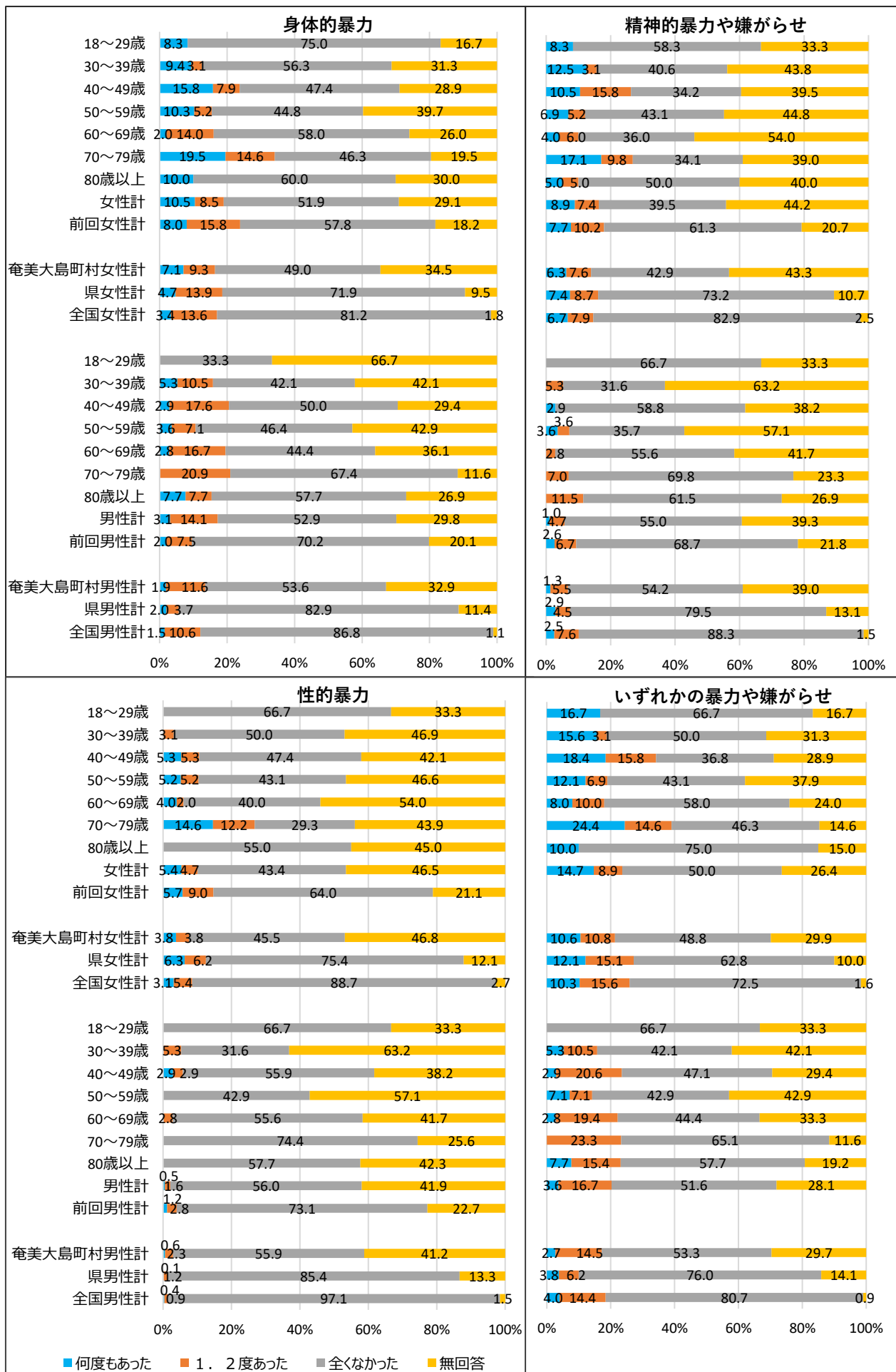
- ・ 「無回答」の割合は、男女とも30、50、60代が4割を超え、うち60代女性と30・50代男性は5割を超えている。
- ・ 「何度もあった」と回答した割合が高いのは70代女性(17.1%)、30代女性(12.5%)、40代女性(10.5%)。「1、2度あった」を合わせると、それぞれ26.9%、15.6%、26.3%。

(ウ) 性的暴力

- ・ 「無回答」の割合は、30代以上の女性と30・50・60代の男性で4割を超え、うち60代女性と30・50代男性は5割を超えている。
- ・ 「何度もあった」と回答した割合が高いのは70代女性(14.6%)で、「1、2度あった」を合わせると26.8%。

(エ) いずれかの暴力

- ・ いずれかの暴力を受けた経験が「何度もあった」と回答した割合が高いのは70代女性(24.4%)、40代女性(18.4%)。「1、2度あった」を合わせると、それぞれ39.0%、34.2%。
- ・ 男性で「何度もあった」と回答した人はほとんどない。「1、2度あった」を合わせると40代と60代以上は2割超。



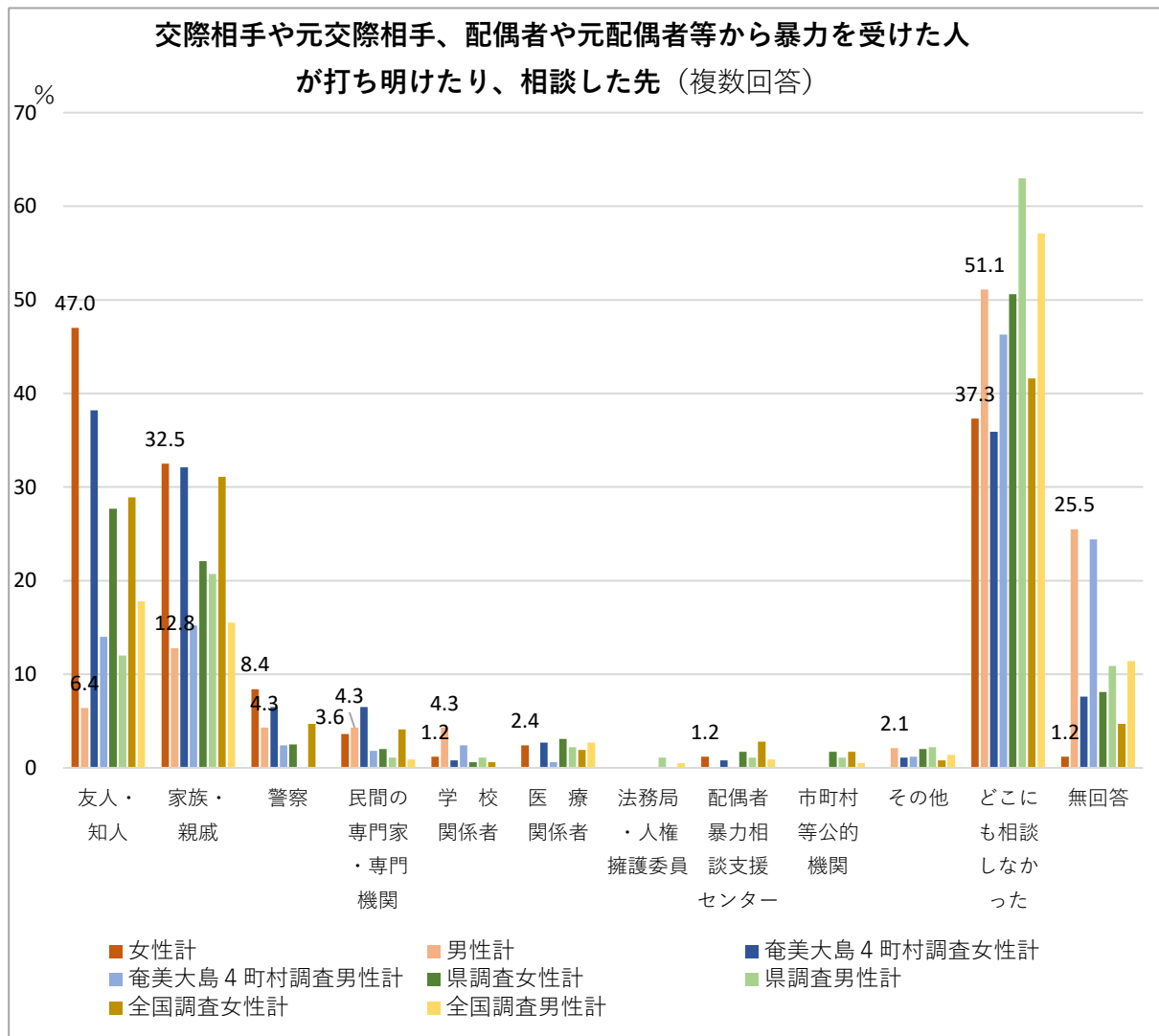
(3) 暴力を受けたときの相談先

ア 性別、性・年代別（性・年代別のグラフ省略）

- ・ 恋人や元恋人、配偶者や元配偶者から暴力や嫌がらせを受けた経験があると回答した人に相談先について訊いたところ、男性では、「どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」と回答した割合が51.1%、「家族・親戚」が12.8%。すべての年代で「どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」と回答した割合が最も高い。
- ・ 女性では、「どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」37.3%、「友人・知人」47.0%、「家族・親戚」32.5%。40代以下は「友人・知人」と回答した割合が7割を超える一方、50代以上では「どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」と回答した割合が高く4割超。
- ・ 町の相談窓口に相談した人はいなかった。

イ 奄美大島町村、県、全国との比較

- ・ 奄美大島町村と比較すると、ほぼ同様の傾向だが、女性では「友人・知人」と回答した割合が高く、男性では低い。
- ・ 県及び全国と比較すると、男女とも「どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」と回答した割合は低い。女性では「友人・知人」と回答した割合が高く、男性では「家族・親戚」「友人・知人」と回答した割合が低い。



7 男性の生きづらさや不便さについて

(1) 男性としての生きづらさや不便さの有無

ア 総計・年代別

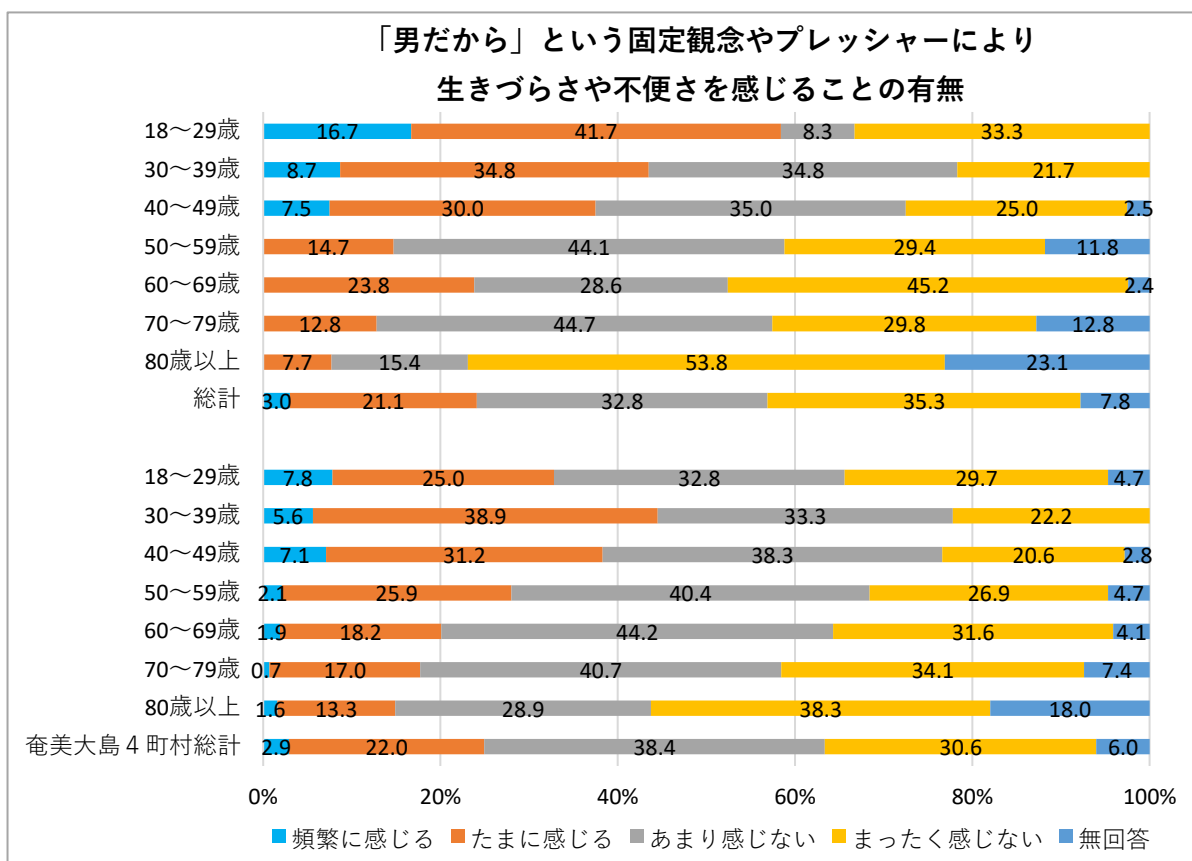
- ・ 男性に、職場や学校、家庭などの場で、「男だから」という固定観念やプレッシャーにより生きづらさや不便さを感じるかについて聞いたところ、「まったく感じない」と回答した割合は35.3%、「あまり感じない」32.8%、「たまに感じる」21.1%で、「頻繁に感じる」は3.0%。
- ・ 若い年代ほど「頻繁に感じる」及び「たまに感じる」（以下『感じる』という。）と回答した割合が高い傾向にあり、「頻繁に感じる」と回答した割合は29歳以下では16.7%。「たまに感じる」を合わせると、29歳以下は58.4%、30代は43.5%、40代は37.5%。
- ・ 60代は50・70代より、「たまに感じる」と回答した割合(23.8%)が高い一方、「まったく感じない」も高い(45.2%)。

イ 結婚の状況・職業別（グラフ省略）

『感じる』と回答した割合は、結婚の状況別では「離別・死別」、職業別では「非正規雇用者」が最も高い(38.5%、31.6%)。

ウ 奄美大島町村との比較

奄美大島町村と比較すると、『感じる』と回答した割合は30代以下は上回り、50代以上は下回っている。



(2) 男性として生きづらさや不便さを感じること

ア 総計・年代別（年代別のグラフ省略）

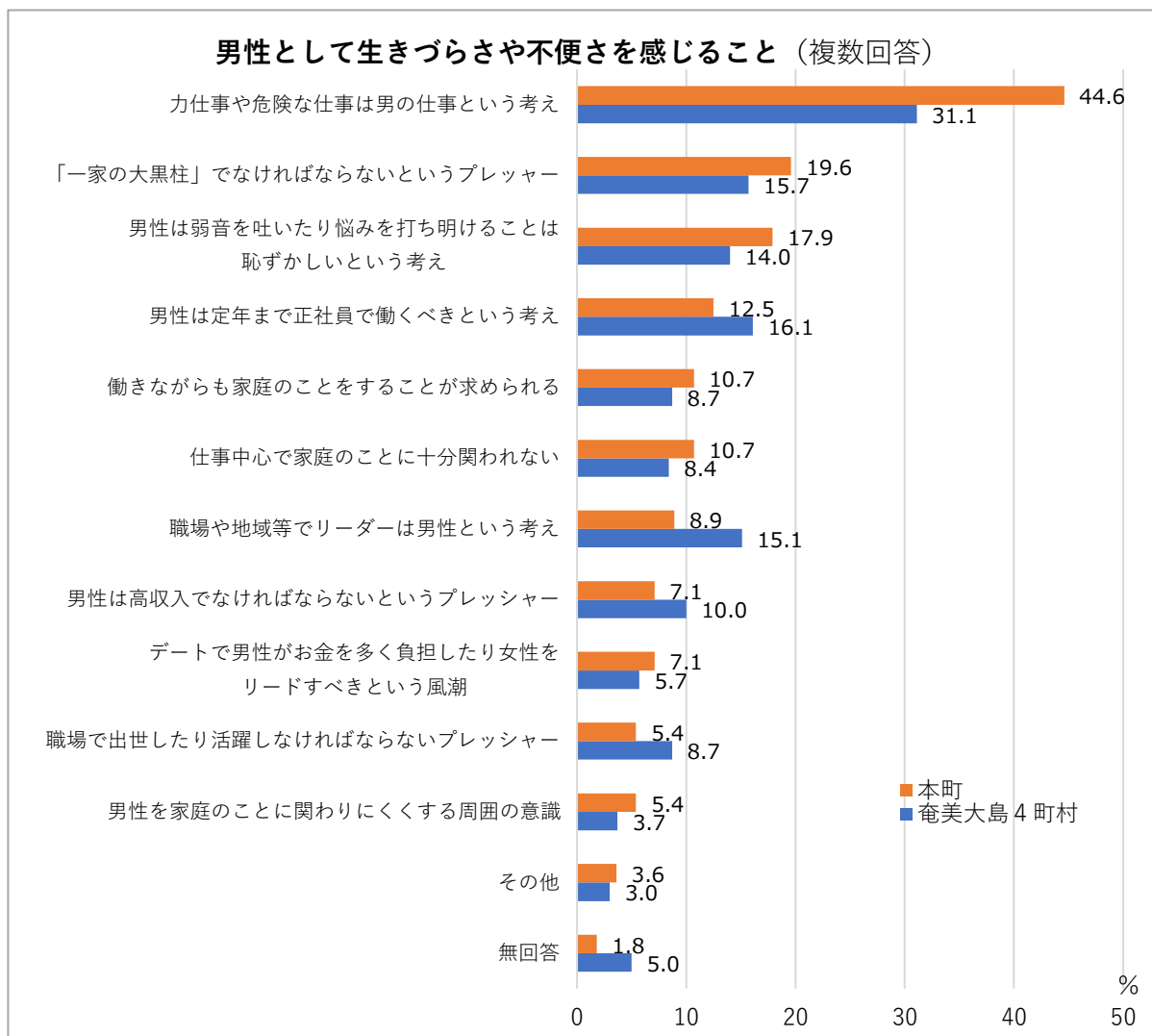
- ・ 職場や学校、家庭などの場で、「男だから」という固定観念やプレッシャーにより生きづらさや不便さを感じることを3つまで聞いたところ、回答した割合が高いのは『力仕事や危険な仕事』(44.6%)、『一家の大黒柱』(19.6%)、『弱音を吐いたり悩みを打ち明けられない』(17.9%)。
- ・ 年代別では、50～70代は『力仕事や危険な仕事』、60代は『一家の大黒柱』と回答した割合が他の年代に比べて高い。

イ 奄美大島町村との比較

奄美大島町村と比較すると、『力仕事や危険な仕事』と回答した割合が高い(13.5ポイント)。

ウ 結婚の状況別、夫婦の就労状況別、職業別 (グラフ省略)

- ・ 結婚の状況別では、「結婚している(事実婚を含む)」男性は『一家の大黒柱』、「離別・死別」した男性は『弱音を吐いたり悩みを打ち明けられない』と回答した割合が高い。
- ・ 夫婦の就労状況別では、「自分のみ仕事がある」男性は、『一家の大黒柱』と回答した割合が最も高い(80.0%)。
- ・ 職業別では、「正規雇用者」は『弱音を吐いたり悩みを打ち明けられない』や『職場や地域でのリーダー』と回答した割合が高い。



「その他」

- ・ 身体的にあまりしっかりしていないこと。(10代男性)
- ・ 女性からたまに「男のくせに」と言われる。(60代男性)

エ 男性として生きづらさや不便を感じたエピソード

- ・ 男性は率先して物事に取り組むべきという雰囲気(20代男性)
- ・ 管理職で休みを取得しにくい。力仕事、外仕事をして当たり前に思われがち。集落の清掃やイベントに参加できないと後日いろいろ言われる。(40代男性)
- ・ 子どものいじめ、身近な女性の死、優しい先生の死、家族けんか(40代男性)

8 生活上の困難について

(1) 相談窓口に必要な配慮

ア 総計

性別に起因する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してもらいたいことについて聞いたところ、『電話による相談可能』(45.0%)、『匿名で相談可能』(44.7%)、『ジェンダーに起因する暴力の専門相談員』(44.3%)と回答した割合が高く、次いで『24時間相談』(39.0%)、『医療、カウンセリング、弁護士の費用が無料』(36.5%)。

イ 奄美大島町村、全国との比較 (グラフ省略)

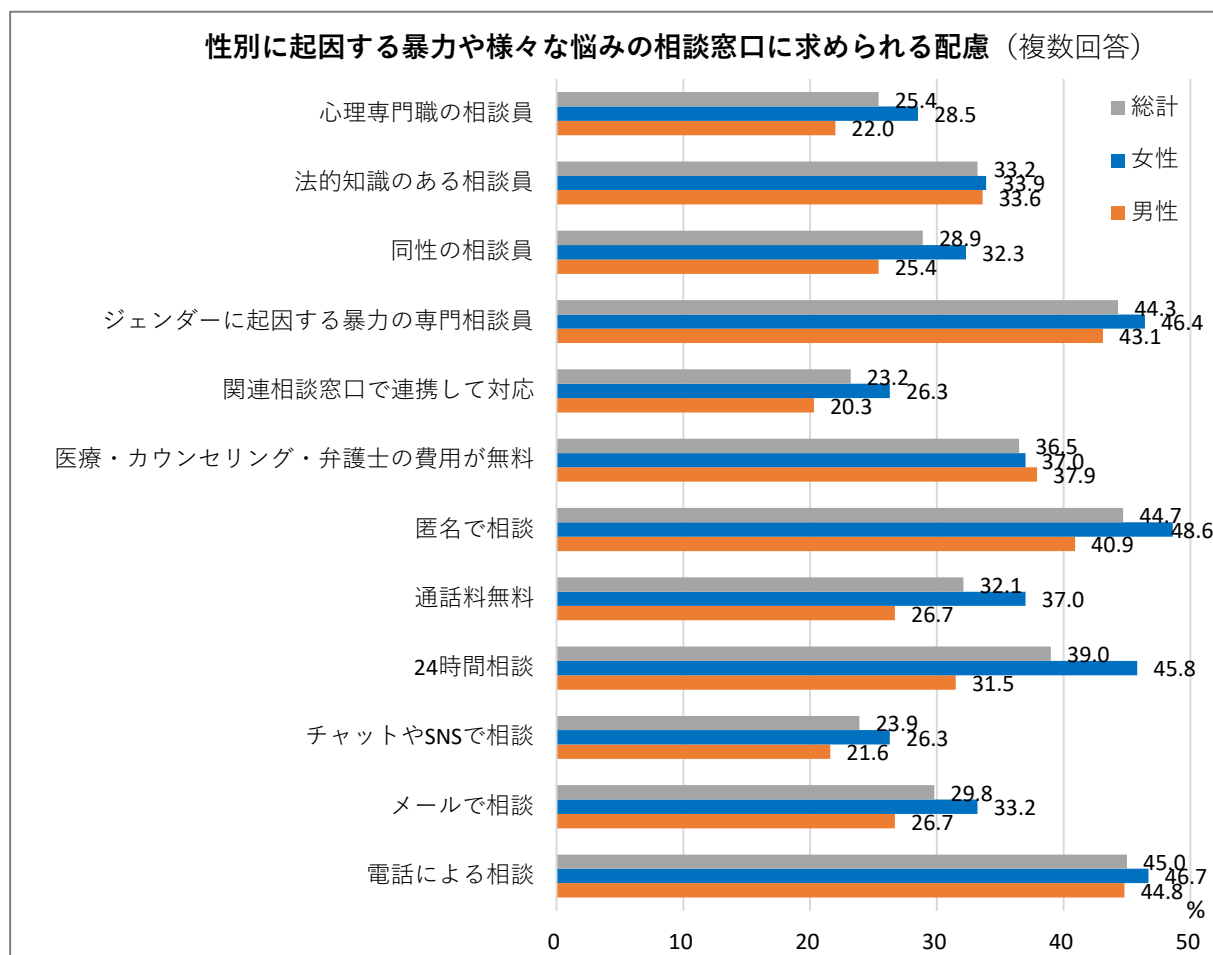
- ・ 奄美大島町村と比較すると、ほぼ同様の傾向であるが、全ての項目で回答した割合が高くなっている。
- ・ 全国と比較すると、すべての項目で回答した割合が低くなっている。

ウ 性別

- ・ ほとんどの項目について、女性の方が男性より回答した割合が高い。
- ・ 女性では、『匿名で相談可能』(48.6%)、『電話による相談可能』(46.7%)、『ジェンダーに起因する暴力の専門相談員』(46.4%)、『24時間相談』(45.8%)の順に回答した割合が高い。
- ・ 男性では、『電話による相談可能』(44.8%)、『ジェンダーに起因する暴力の専門相談員』(43.1%)、『匿名で相談可能』(40.9%)の順に回答した割合が高い。
- ・ 男女で差が大きいのは『24時間相談』と『通話料が無料』で、それぞれ女性が14.3ポイントと10.3ポイント高い。

エ 年代別

- ・ 29歳以下では、ほとんどの項目で回答した割合が高く、特に『チャットやSNSで相談可能』(61.8%)、『メールで相談可能』(50.0%)、『24時間相談』(52.9%)が他の年代に比べて高い。
- ・ 『ジェンダーに起因する暴力の専門相談員』と回答した割合は50・60代、『電話による相談可能』は50・70代、『匿名で相談可能』は40・50代で5割を超えている。



性別に起因する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口等に求める配慮（複数回答）

単位：％

	電話による 相談	メールで相 談	チャットや SNSで相談	24時間相談	通話料無料	匿名で相談	医療・カウ ンセリン グ・弁護士 の費用が無 料	関連相談窓 口に連携し て対応	ジェンダー に起因する 暴力の専門 相談員	同性の相談 員	法的知識の ある相談員	心理専門職 の相談員
総計	45.0	29.8	23.9	39.0	32.1	44.7	36.5	23.2	44.3	28.9	33.2	25.4
女性	46.7	33.2	26.3	45.8	37.0	48.6	37.0	26.3	46.4	32.3	33.9	28.5
男性	44.8	26.7	21.6	31.5	26.7	40.9	37.9	20.3	43.1	25.4	33.6	22.0
18～29歳	47.1	50.0	61.8	52.9	47.1	47.1	35.3	17.6	44.1	35.3	35.3	29.4
30～39歳	28.6	31.7	44.4	41.3	44.4	49.2	41.3	28.6	39.7	34.9	38.1	28.6
40～49歳	44.3	39.8	30.7	45.5	34.1	56.8	45.5	28.4	47.7	30.7	43.2	33.0
50～59歳	54.1	39.8	25.5	46.9	35.7	50.0	46.9	27.6	51.0	33.7	32.7	27.6
60～69歳	43.6	29.1	17.3	40.9	33.6	43.6	40.0	22.7	52.7	30.9	36.4	30.0
70～79歳	51.1	13.8	10.6	27.7	19.1	37.2	23.4	19.1	41.5	22.3	25.5	18.1
80歳以上	40.0	10.0	4.0	22.0	20.0	24.0	18.0	10.0	20.0	12.0	16.0	6.0

（２）生活上の不安や困難

ア 総計・性別

- ・ 生活の場面での7項目の不安や困難について訊いたところ、「とても感じる」と回答した割合は『健康』への不安が最も高く(12.6%)、次いで『災害や事件・事故』(9.6%)、『生活の困窮』(8.3%)。それぞれ、「ある程度感じる」を合わせると、55.5%、47.7%、35.8%。
- ・ 不安や困難を「まったく感じない」と回答した割合が高い項目は、男女で『家族関係』(女性37.0%、男性40.9%)と男性の『孤独』(39.2%)。
- ・ 不安や困難を「とても感じる」又は「ある程度感じる」と回答した割合は、『働く場や機会』以外で男性より女性のほうが高く、特に『災害や事件・事故』で男女の差が大きい。

イ 奄美大島町村との比較（グラフ省略）

奄美大島町村と比較すると、総じて同様の傾向にある。

ウ 生活の困窮

- ・ 生活の困窮の不安について、「とても感じる」と回答した割合は男女とも8.2%で、「ある程度感じる」と合わせると女性は38.3%、男性は32.8%。
- ・ 「とても感じる」と回答した割合が高いのは、30代男性(21.7%)、40代男性(15.0%)、40代女性(12.8%)。「ある程度感じる」と合わせると、20代男性(50.0%)、40代と30代の女性(49.0%、41.0%)が高い。
- ・ 「とても感じる」又は「ある程度感じる」と回答した割合は、「夫婦世帯」が他の世帯より低い傾向にあり、女性は「未婚」、男性は「離別・死別」の人が高い傾向にある。
- ・ 前回と比較すると、不安や困難を感じている割合は高くなっている。(グラフ省略)

エ 働く場や機会

- ・ 働く場や機会がない・十分に働けていないことへの不安・困難について、男女とも「とても感じる」と回答した割合は約4%、「ある程度感じる」を合わせると約22%。
- ・ 「とても感じる」又は「ある程度感じる」と回答した割合が高いのは、40代の女性(36.2%)、「単身世帯」の男性(34.9%)と「離別・死別」の男性(42.3%)。
- ・ 前回調査と比較すると、不安や困難を感じている割合は高くなっている。

オ 健康

- ・ 健康への不安について「とても感じる」と回答した割合は、男女とも約12%、「ある程度感じる」を合わせると女性は57.3%、男性は53.9%。
- ・ 年代が高いほど不安を感じる割合が高い傾向にあり、「とても感じる」と回答した割合が高いのは、女性の70代(17.4%)、男性の80代(15.4%)。「ある程度感じる」を合わせると、男女とも70代が高い。(女性78.3%、男性65.9%)
- ・ 「とても感じる」と回答した割合は「未婚」の女性(16.4%)が最も高く、「ある程度感じる」を合わせると、「離別・死別」の女性の方が高い(72.3%)。世帯の状況では特徴的な傾向はみられない。

カ 孤独

- ・ 「とても感じる」と回答した割合は男女とも 3%で、「ある程度感じる」を合わせると、女性は 21.9%、男性は 19.0%。
- ・ 「とても感じる」又は「ある程度感じる」と回答した割合は、40 代女性(36.2%)、「単身世帯」の男女(女性 34.8%、男性 32.5%)、「未婚」の女性(36.4%)、「離別・死別」(30.8%)の男性が高い。

キ 困ったときの支援

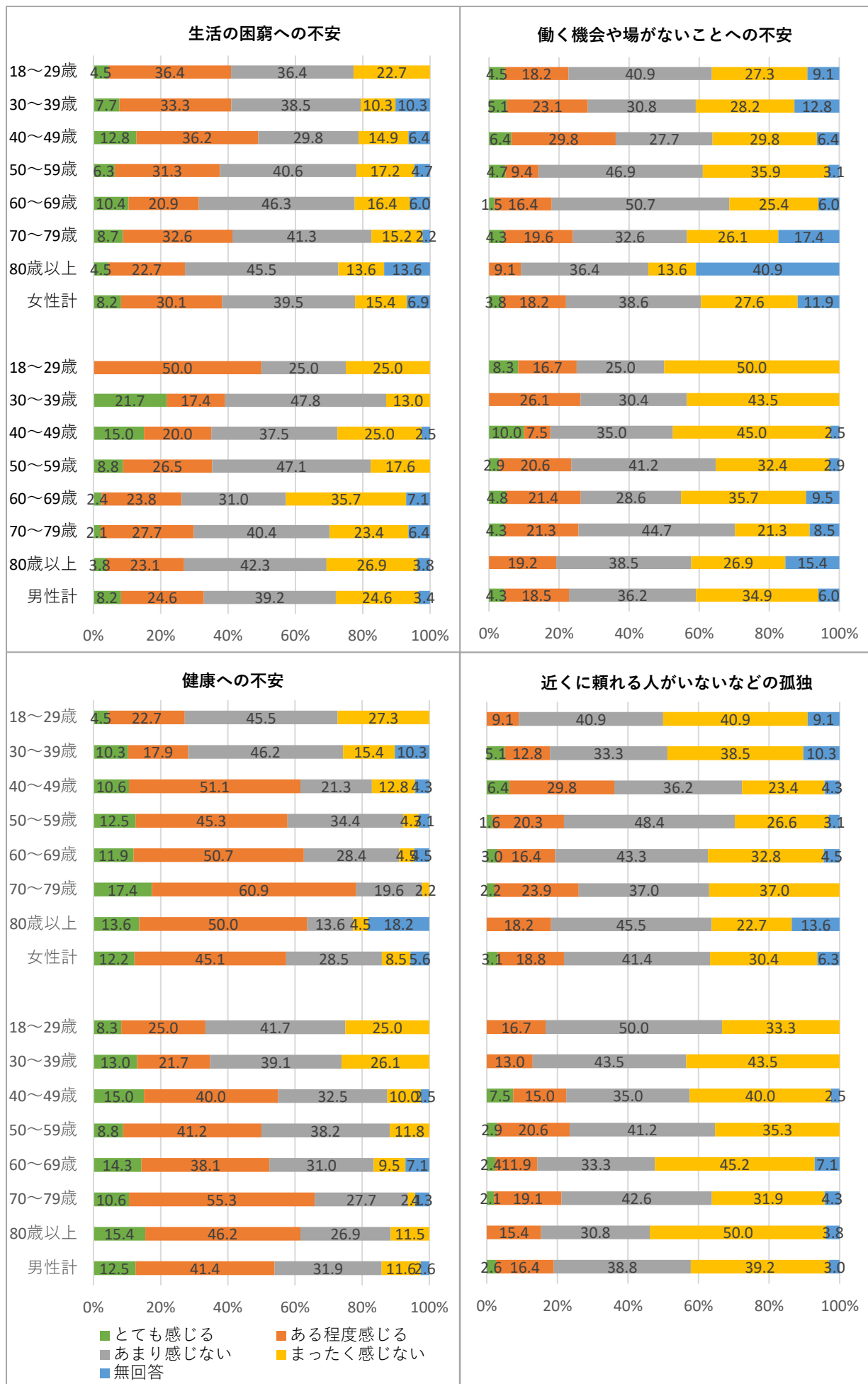
- ・ 困っていても、支援が受けられないことへの不安や困難について、「とても感じている」と回答した割合は、女性は 6.6%、男性は 4.3%で、「ある程度感じる」を合わせると、女性は 27.6%、男性は 25.0%。
- ・ 「とても感じている」と回答した割合は 40 代女性が高く(10.6%)、「ある程度感じる」を合わせると 51.0%。男性も 40 代が高い(40.0%)。
- ・ 「とても感じる」又は「ある程度感じる」と回答した人の割合が高いのは、「二世帯世帯」の女性(36.2%)と「未婚」の女性(36.4%)。

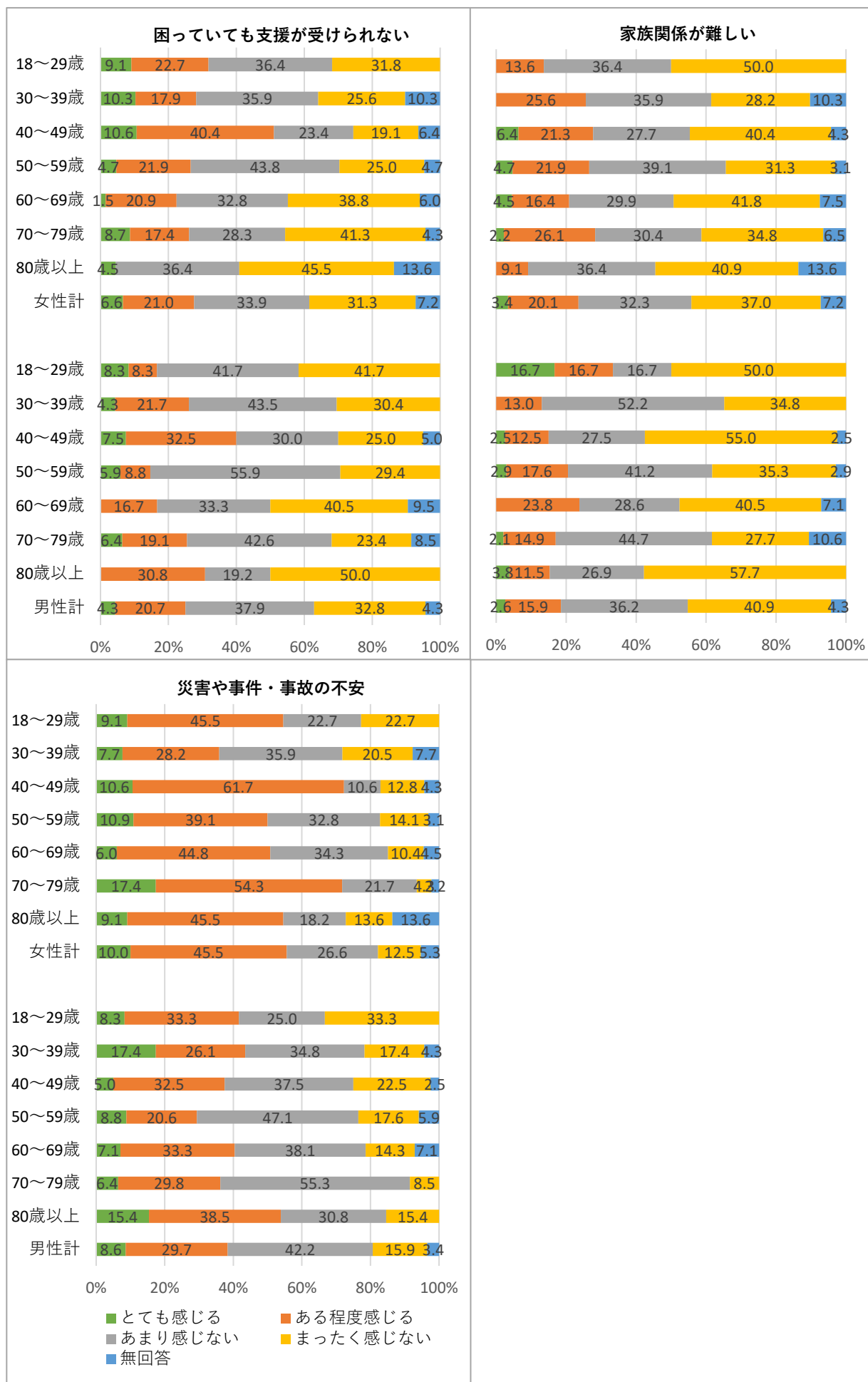
ク 家族関係

- ・ 「とても感じる」と「ある程度感じる」と回答した割合は、それぞれ女性は 3.4%と 20.1%、男性は 2.6%と 15.9%。
- ・ 「とても感じる」と「ある程度感じる」と回答した割合を合わせると、29 歳以下の男性(33.4%)、70 代と 40 代の女性(28.3%、27.7%)、「単身世帯」の男女(女性 27.8%、男性 27.9%)、「離別・死別」の男性(38.4%)、「未婚」の女性(27.3%)が高い。

ケ 災害や事件・事故

- ・ 災害や事件・事故の不安を「とても感じる」と回答した割合は、女性は 10.0%、男性は 8.6%。「ある程度感じる」を合わせると、女性は 55.5%、男性は 38.3%。
- ・ 70 代の女性と 30 代の男性で「とても感じる」と回答した割合が高く(ともに 17.4%)、「ある程度感じる」を合わせると、女性では 40 代と 70 代(72.3%、71.7%)、男性では 80 代(53.9%)が高い。
- ・ 「とても感じる」又は「ある程度感じる」と回答した割合は、「単身世帯」の女性(62.5%)、「未婚」の男性が高い(47.1%)。





9 男女共同参画施策について

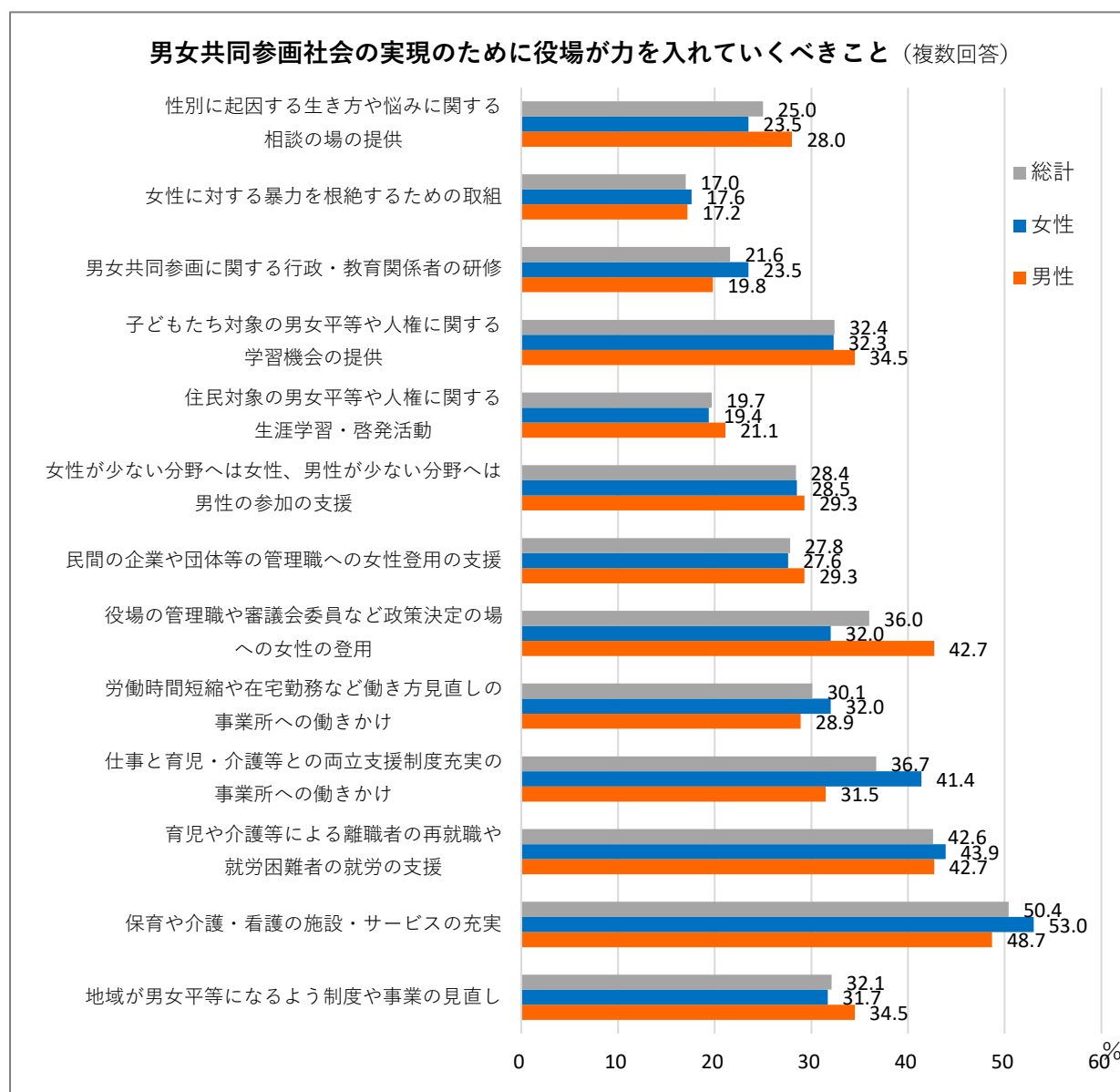
男女共同参画社会を実現するために役場が力を入れていくべきこと

ア 総計

- 男女共同参画社会の実現のために役場が力を入れるべきことについて聞いたところ、『保育・介護サービスの充実』と回答した人の割合が 50.4%、次いで『再就職や就労支援』42.6%、『仕事と育児・介護等の両立支援制度の事業所への働きかけ』36.7%、『政策決定の場への女性登用』36.0%。

イ 性別、性・年代別

- 男女とも『保育・介護サービスの充実』（女性 53.0%、男性 48.7%）、『再就職や就労支援』（女性 43.9%、男性 42.7%）と回答した割合が高く、他に、女性では『仕事と育児・介護等の両立支援制度の事業所への働きかけ』（41.4%）、男性では『政策決定の場への女性登用』（42.7%）も高い。
- 女性は、29 歳以下で『働き方の見直しの事業所への働きかけ』（63.6%）、『仕事と育児・介護等の両立支援制度の事業所への働きかけ』及び『男女のそれぞれ少ない分野への参加支援』、30 代と 60 代以上は『保育・介護サービスの充実』、50 代は『再就職や就労支援』が 5 割を超えている。
- 男性は、60 代で『再就職や就労支援』（59.5%）、29 歳以下で『再就職や就労支援』、30 代で『働き方の見直しの事業所への働きかけ』、40・50 代及び 70 代以上で『保育・介護サービスの充実』、70 代で『政策決定の場への女性登用』が 5 割を超えている。



男女共同参画社会を実現するために役場が力を入れていくべきこと（複数回答）

単位：％

	地域が男女平等になるよう制度や事業の見直し	保育や介護・看護の施設・サービスの充実	育児や介護等による離職者の再就職や就労困難者の就労の支援	仕事と育児・介護等との両立支援制度充実の事業所への働きかけ	労働時間短縮や在宅勤務など働き方見直しの事業所への働きかけ	役場の管理職や審議会委員など政策決定の場への女性の登用	民間の企業や団体等の管理職への女性登用の支援	女性が少ない分野へは女性、男性が少ない分野へは男性の参加の支援	住民対象の男女平等や人権に関する生涯学習・啓発活動	子どもたち対象の男女平等や人権に関する学習機会の提供	男女共同参画に関する行政・教育関係者の研修	女性に対する暴力を根絶するための取組	性別に起因する生き方や悩みに関する相談の場の提供
総計	32.1	50.4	42.6	36.7	30.1	36.0	27.8	28.4	19.7	32.4	21.6	17.0	25.0
女性計	31.7	53.0	43.9	41.4	32.0	32.0	27.6	28.5	19.4	32.3	23.5	17.6	23.5
18～29歳	36.4	45.5	40.9	54.4	63.6	18.2	27.3	54.5	9.1	40.9	27.3	36.4	36.4
30～39歳	28.2	53.8	53.8	46.2	48.7	25.6	28.2	28.2	12.8	28.2	10.3	12.8	23.1
40～49歳	44.7	46.8	34.0	38.3	27.7	29.8	25.5	29.8	27.7	27.7	25.5	21.3	25.5
50～59歳	20.3	48.4	50.0	43.8	34.4	35.9	28.1	18.8	15.6	37.5	21.9	20.3	21.9
60～69歳	34.3	56.7	44.8	41.8	26.9	40.3	29.9	32.8	26.9	31.3	22.4	14.9	19.4
70～79歳	34.8	65.2	50.0	37.0	17.4	32.6	30.4	23.9	15.2	30.4	30.4	13.0	19.6
80歳以上	22.7	54.5	22.7	36.4	13.6	27.3	13.6	27.3	13.6	18.2	22.7	4.5	22.7
男性計	34.5	48.7	42.7	31.5	28.9	42.7	29.3	29.3	21.1	34.5	19.8	17.2	28.0
18～29歳	41.7	41.7	50.0	25.0	33.3	25.0	8.3	25.0	16.7	16.7	8.3	33.3	33.3
30～39歳	26.1	30.4	34.8	34.8	52.2	30.4	30.4	26.1	17.4	34.8	26.1	26.1	26.1
40～49歳	32.5	52.5	37.5	30.0	37.5	40.0	30.0	37.5	17.5	42.5	15.0	20.0	35.0
50～59歳	44.1	55.9	44.1	41.2	29.4	44.1	29.4	26.5	17.6	38.2	14.7	20.6	41.2
60～69歳	40.5	42.9	59.5	31.0	28.6	42.9	33.3	31.0	23.8	40.5	31.0	16.7	26.2
70～79歳	29.8	51.1	42.6	34.0	17.0	53.2	31.9	29.8	19.1	31.9	17.0	8.5	21.3
80歳以上	26.9	57.7	38.5	26.9	23.1	46.2	26.9	26.9	38.5	26.9	26.9	15.4	15.4

「その他」

- ・ 子どもだけでなく大人への教育。(20代男性)
- ・ 賃上げの実現、税金の縮小(40代男性)
- ・ そもそも「男女」が古い。性的マイノリティは？(50代男性)
- ・ 日本マクドナルド(株)や野村研究所などを参考にしたり、「女性活躍プロジェクトチーム」に取り組む。(70代女性)
- ・ 女性自ら積極的に出てきてほしい。(70代男性)
- ・ 女性が男性と同じ様な技術が持てれば良い。(年代不明男性)

10 男女共同参画社会の実現に向けての意見・要望

男女共同参画社会を実現するために、今後、役場が力を入れていくべきことを訊いたところ、63 件の意見等がありました。主な意見は以下のとおりです。 ※同じ内容のものをまとめたり、抜粋したものがあります。

■意識・風潮 (18 件)

- ・ LGBT など含めて性への偏見を見直していく必要がある。(30 代女性)
- ・ 奄美は男尊女卑の精神が根強い。早急に、年配の方や若者に男女平等の周知や制度が必要。(30 代女性)
- ・ 地域における男尊女卑の風土を無くす。(40 代女性)
- ・ 性別のフィルターの前に、その人の能力や良さを認め合うことやその姿を大人(親)が子供に見せることが大事。家事は「女性がするもの」ではなく、性別問わず「みんなで分担するもの」という意識をみんながもてるとよい。(50 代女性)
- ・ リーダー等一部の人の意見だけを取り入れるのではなく、みんなで話し合っ、良い意見はどんどん取り入れていく風潮が地域社会にあれば、男女共同参画が進んでいくのではないか。(60 代女性)
- ・ 柔軟性のある方は、相手の立場や意見を理解し、尊重することができ、これまでのやり方に固執することなく問題を解決したり、様々な物事の実現に近づく。固定観念にとらわれ、柔軟性の欠ける人の意識改革が必要。(60 代女性)
- ・ 女性が積極的に意見して、もっと自分から前に出るべきで、周りが協力して推さないとな前に出られないのは良くない。男女とも大きな心を持って前向きに挑戦していくと良いと思う。(70 代男性)
- ・ 女性の「男の人にさせた方がいい」、「女だから」という考えや意識は改革が必要。(80 歳以上男性)
- ・ 「男性だから」「女性だから」という考え方がなくなり、一人一人が自分の人生を有意義に過ごせたらと思う。たくさんの人の意見で少しずつでも社会が変わることを望んでいる。(年代不明女性)

■子育て・介護 (4 件)

- ・ 保育の施設、サービスは今でも十分有り難いが、延長料金支払制度等を設けて、開所が 30 分長くなるといい。(40 代女性)
- ・ 収入は減るのに学校給食費や保育料、学童利用料等が上がり、何のために働いているかわからなくなる。収入に見合う料金にしてほしい。(40 代女性)
- ・ 介護も子育ても一人では無理で、人の手助けが必要。行政や会社の協力があると助かる。(年代不明女性)
- ・ 子育てだけではなく介護で生きづらい。男女平等に行うべきで、みんなで協力することが必要。(年代不明女性)

■職場・労働 (11 件)

- ・ 男や女、若い人や老人に関係なく能力に応じて相応の仕事ができるようにする。働く上で賃金の心配をなくす。(20 代男性)
- ・ 大島紬の織り工は「女性」という認識があるが、男性がいても良いと思う。(30 代女性)
- ・ 人事制度の専門家が町内の中小企業を中心に訪問し、男性の有給育休の制度化を促進。町は制定 1 年後に助成金を交付することとし、制度の浸透を図る。その取組の良さがわかれば、島なら口コミで拡散するはず。(30 代男性)
- ・ 育児期に一番重要なのは働く環境の整備。一人で子どもと関わる時間が長いほど精神的に追い詰められやすい。男女とも残業せず休みも取れて、生活できる収入を得られる環境があれば、育児も仕事もでき、思いやれるゆとりも出る。(40 代女性)
- ・ 育児休暇は男女共にある。介護で仕事を辞めなくていいように、介護休暇制度も創ってほしい。(40 代女性)
- ・ 労働時間を短縮すると収入が減るので、控除や補助の仕組みの充実を。出産(産休・育休)や病気でも昇給があれば生活できるので、働く意欲を持てる仕組みが必要。(40 代男性)
- ・ 4 町村の事業所をサンプリングし調査をする。既に男女共同参画について明らかになっている指標を比較し、4 町村の現状について把握する。改善すべき箇所を見つけたら、そこに重点的な施策を行う。(50 代男性)
- ・ 働くことは、経済的基盤を得るとともに自己実現につながり、性別に関わらず一人一人が能力を発揮できる環境づくりが人権の視点からも大事。少子高齢化、労働力不足のため働く人材の確保は必要。正社員として、家族形態やライフスタイルに応じて短時間勤務等の働き方を選択し、育児・介護等と両立できれば、地域の活性化、個の活力につながる。(60 代女性)
- ・ 男女共同参画社会の実現は、女性が働きやすい環境と子どもを産み育てやすい環境の整備の推進に尽きる。これにより第 2、第 3 子の出生が増え、人口減少の歯止めとなる。この 2 つの施策を連携させ同時併行で進めるべき。(60 代男性)
- ・ どうすれば職場がうまくいくか話し合い、課内で仕事を補い合える信頼関係がつかること。(70 代女性)
- ・ 女性はパソコンを使った事務等を早くできるので、職員採用を平等にしてほしい。(年代不明男性)

■教育・学習（7件）

- ・ 昭和、平成生まれには男女平等の意識付けが難しく、時間がかかるので、小学生から男女平等教育が大事。(30代女性)
- ・ 「男女共同参画社会」について、自分には関係ないと思う人や自分は意識が高いという人に限って理解、実践に乏しいので、行政は学びや研修の機会をしっかりと作ることが必要。それは人権学習と重なる。一人ひとりを大切にしたい家庭教育の充実を図り、大人がまずその模範とならなければならない。(40代女性)
- ・ 研修の充実が必要だが、研修で住民の意識を変えることは難しい。大人より子どもたち向けの講座や教育が意識改革につながると思う。(40代女性)
- ・ 小学生、特に低学年（女の子）に将来何になるかと問うと、保育の先生やパティシエで、総理大臣、社長、科学者は出てこないで、この年代からの教育が必要。(70代男性)
- ・ 例えば大学までの授業料を無料にして、男女に関わらず能力を最大限に伸ばせる社会であってほしい。政治家が本気で考えたら、親の経済力に関係なく意欲と能力があれば誰もが最高の教育を受けられることは可能になる。(70代男性)
- ・ 男女共同参画に必要な研修活動を充実する。(80歳以上男性)

■町民が抱える困難な問題への対応（3件）

- ・ 一人親でも自立できるように仕事の待遇や給付等の援助があれば、DV等で問題のあるパートナーから逃げるができると思う。(40代男性)
- ・ 通称「困難女性支援法」（令和6年4月1日施行）に基づいて策定が努力義務化された「困難な問題を抱える女性の支援に関する市町村基本計画書」の早期策定を要望する。その策定が遅れると、法律は施行されているのに、「困難な問題を抱える女性」の方々が、町の男女共同参画行政に参画できていないことになる。(60代男性)

■地域活動や政治・行政の場（2件）

- ・ 地域の活動を「婦人会」「青年団」など性別や年齢で分けて、「婦人会」に料理、老人会や壮年団へのお酒遊び・お酌といった役割が固定化されていて、誰もおかしんと思っていない。地域種別が、子ども達にそれが当たり前と教育をする場になってしまっている。まずは、役場（行政）が「婦人会」というカテゴリーを無くすように誘導すべき。(40代女性)
- ・ 町政において女性が活躍できる場をもっと増やしたい。龍郷町はまだ男性優位だと感じる。(50代女性)

■全体（13件）

- ・ 男女の割合が1：1だと平等になっていると単純にはいえないので、私たちがかけがえている「平等」というゴールがどこにあるのか、もっと目に見えて理解できる理想の未来について話し合ったり、絵のようなものに表現するのがいいかもしれない。(10代男性)
- ・ 男女でグループ分けをし、それぞれ得意なことを担当した結果、今の状況になったと思う。これからは個々の考えや能力に焦点をあて、個々が自己実現できることが大切。議員や会社役員の男女比率は重要視しなくてもいいと思う。(30代男性)
- ・ 町内の身内や知り合いのネットワークは強くても、町外や島外からの居住者の参画は進んでいない。男女共同参画や男女平等以前に、その参画を進めてほしい。(40代女性)
- ・ 本町は恵まれていると思っている。(50代女性)
- ・ 本町は恵まれていると思っている。(50代女性)
- ・ 特に高齢者を見ていて、島は男性社会だと感じる。(50代男性)
- ・ 女性を増やすことのみ重視する政策に疑問を持っているが、「性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮できる社会」の実現は重要。女性が能力を発揮するために、能力養成の妨げや差別の除去に重点をおくべき。(50代男性)
- ・ 性的マイノリティもあるので「男女」の枠組みが古い。全ての人が共同参画できる社会づくり。(50代男性)
- ・ 特に高齢者を見ていて、島は男性社会だと感じる。(50代男性)
- ・ 女性を増やすことのみ重視する政策に疑問を持っているが、「性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮できる社会」の実現は重要。女性が能力を発揮するために、能力養成の妨げや差別の除去に重点をおくべき。(50代男性)
- ・ 性的マイノリティもあるので「男女」の枠組みが古い。全ての人が共同参画できる社会づくり。(50代男性)
- ・ 形式的ではない、もっと根源的な組織を作り、幅広く啓発活動を展開していくべき。私自身は男性としての生きづらさや不便さを感じていないが、私に関わる企業の多くで低賃金、長時間労働、疲弊感、疲労感、貧困、差別、子育てや介護の悩みなどを抱える労働者が多数存在している。(60代男性)
- ・ 過去も今も共働きの家庭は女性の負担が重い。日光市で行われた「先進国7カ国（G7）男女共同参画女性活躍担当相会合」の出席者は、議長を務めた日本の担当相だけが中年男性で、日本以外は全員女性。日本は世界と比べて遅れている。政治、行政、社会で女性は活躍し、男性は主夫業に取り組んでほしい。(70代女性)
- ・ 仮に戦争が起きた場合、女性も共同社会の一員となるのでしょうか？(70代女性)

■調査について（5件）

- ・ 長い時間かけて少しずつの変化しかないと思うが、必ず必要としている人はいるので頑張って下さい。(30代男性)
- ・ 「男性は外で働き女性は家庭」という時代遅れの質問をせざるを得ない地域なのかと感じる。(50代女性)
- ・ 4町村が足並みをそろえて進めていくことを大いに期待している。子や孫が働きやすい環境のため「健康」「教育」「経済」「政治」の全てにおいてのジェンダーギャップを取り払ってほしい。(70代女性)

奄美大島4町村（大和村/宇検村/瀬戸内町/龍郷町）合同実施 **男女共同参画に関する住民意識調査票**

※紙面にあわせて実際の調査票のレイアウトを変更しています。

問1 あなたは、次の(1)から(8)の分野及び町全体で見た場合に、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものに○をつけてください。（それぞれ○は1つ）

- (1) 家庭生活、(2) 職場、(3) 学校教育の場、(4) 政治の場、(5) 法律や制度の上
(6) 社会通念・慣習・しきたりなど、(7) 自治会やPTAなどの地域活動の場、(8) 町全体で見た場合

選択肢番号	選択肢の内容
1	男性の方が非常に優遇されている
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている
3	平等である
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている
5	女性の方が非常に優遇されている

問2 あなたが男女の地位が不平等と感じていることがありましたら、教えてください。

--

問3 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように考えですか。あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。（○は1つ）

選択肢番号	選択肢の内容
1	女性は職業をもたないほうがよい
2	結婚するまでは職業をもつ方がよい
3	子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
4	子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい
5	子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら職業をもつ方がよい

問4 「男性(夫)は外で働き、女性(妻)は家庭を守るべきである」といった性別を理由に役割を固定的にわける考え方について、あなたの気持ちに最も近いものに○をつけてください。（○は1つ）

選択肢番号	選択肢の内容	次に回答する問
1	賛成	→問5へ
2	どちらかといえば賛成	→問5へ
3	どちらかといえば反対	→問6へ
4	反対	→問6へ

問5 問4で「1. 賛成」又は「2. どちらかといえば賛成」と答えた方にお聞きします。賛成と思うのはなぜですか。（○はいくつでも）

選択肢番号	選択肢の内容
1	日本の伝統的な考え方や男女・夫婦の在り方だと思うから
2	自分の父親は外で働き、母親は家を守っているから・いたから
3	男性が外で働いた方が、多くの収入が得られると思うから
4	女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
5	育児・介護・家事と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから
6	性別によって特性や能力、向き・不向きが違うと思うから
7	その他（具体的に ）

問6 問4で「3. どちらかといえば反対」又は「4. 反対」と答えた方にお聞きします。反対と思うのはなぜですか（○はいくつでも）

選択肢番号	選択肢の内容
1	男女平等に反すると思うから
2	自分の両親は共働きだから・だったから
3	共働きする方が、多くの収入が得られると思うから
4	女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから
5	育児・介護・家事を男女で分担したり、職場環境や社会制度の整備などにより、女性が働き続けることは可能だと思うから
6	個性や能力、向き・不向きは性別では決まらないと思うから
7	その他（具体的に ）

問7 あなたは、今後、男性が育児や介護、家事、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

選択肢番号	選択肢の内容
1	男性が育児・家事に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2	男性が育児・家事に参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3	夫婦や家族間のコミュニケーション（お互いの気持ちなどを言葉で伝え合い、お互いにわかり合おうとすること）をよくはかること
4	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
5	社会の中で、男性による育児・家事などについても、その評価を高めること
6	男性による育児・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
7	労働時間の短縮や休暇制度、テレワーク（情報通信技術を活用し時間や場所の制約を受けずに、柔軟に働く形態）などの多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持つようにすること
8	男性の育児・家事などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと
9	男性が育児・家事などを行うための、仲間づくりやネットワークづくりをすすめること
10	その他（具体的に ）

問8 次の(1)から(3)の子育ての考え方について、あなたの気持ちに最も近いものに○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

- (1)「男女ともに同等に経済的自立ができるよう職業人としての教育が必要」という考え方
 (2)「男女ともに炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけるほうがよい」という考え方
 (3)「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい」という考え方

選択肢番号	選択肢の内容
1	賛成
2	どちらかといえば賛成
3	どちらかといえば反対
4	反対

問9 現在、結婚している方(事実婚を含む。)にお聞きします。あなたの家庭では、次の(1)から(4)について、どのように分担していますか。(育児と介護・看護については、現在行っていないでも過去の経験があれば、それをもとに選んでください。)(○は1つ)

- (1)家事、(2)育児、(3)介護・看護、(4)自治会やPTAなど地域活動への参加

選択肢番号	選択肢の内容
1	自分と配偶者(パートナー)で半分ずつ分担
2	自分の方が配偶者(パートナー)より多く分担
3	配偶者(パートナー)の方が自分より多く分担
4	1から3以外の方法で分担(具体的に)

問10 雇用されて仕事をされている方にお聞きします。あなたの職場では、次のようなことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

選択肢番号	選択肢の内容
1	募集・採用の機会に男女で格差がある
2	賃金に男女で格差がある
3	女性を補助的な業務や雑用に従事させる傾向にある
4	昇進・昇格に男女で格差がある
5	管理職の登用に男女で差がある
6	女性は結婚や出産により退職する慣例や雰囲気がある
7	中高年女性には退職を促すような雰囲気がある
8	研修や教育訓練、出張・視察などの機会に男女で差がある
9	男性は育児休業や介護休業を取りにくい雰囲気がある
10	男女ともに育児休業や介護休業を取りにくい雰囲気がある
11	同じ職場に夫婦が働いている場合、どちらかは働き続けにくい雰囲気がある
12	正規雇用と非正規雇用で処遇の格差が大きい
13	その他(具体的に)
14	性別による格差はない

問11 女性が職業生活で能力を発揮するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○は1つ)

選択肢番号	選択肢の内容
1	長時間労働の是正やテレワークの推進など、男女がともに育児や介護、家事などを担うことができる職場環境の整備
2	休業制度や短時間勤務制度など、仕事と育児や介護の両立を支援するための施策の整備
3	保育所や放課後児童クラブ施設、介護施設など、育児や介護をサポートする施設やサービスの整備
4	経営者や管理職の意識改革
5	男性の家事や育児、介護などへの参画を促進するための意識啓発
6	女性のキャリアアップを図るための研修やネットワークづくり
7	女性の就職・再就職の支援
8	その他(具体的に)

問12 あなたはこれまでに、交際相手や元交際相手、配偶者や元配偶者(「配偶者」には、事実婚や別居中の配偶者を含む。)から次のようなことをされたことがありますか。

- (1) 10代または20代の時の交際相手や元交際相手について、あてはまるものに○をつけてください。

選択肢番号	選択肢の内容	次に回答する問
1	なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど、身体に対する暴力があった	→問13へ
2	人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの嫌がらせ、あるいは、あなたやあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫など、精神的な暴力があった	→問13へ
3	嫌がっているのに性的な行為を強要するなど、性的な暴力があった	→問13へ
4	1～3のいずれもなかった	→問14へ
5	10～20代の時に交際相手や元交際相手はいなかった	→問14へ

- (2) 配偶者が現在いる方、又は過去にいた方について、お聞きします。配偶者や元配偶者からの次のア～ウについて、あてはまるものに○をつけてください。

ア なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力

イ 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの嫌がらせ、あるいは、あなたやあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫などの精神的な暴力

ウ 嫌がっているのに性的な行為を強要するなどの性的な暴力

選択肢番号	選択肢の内容	次に回答する問
1	1、2度あった	→問13へ
2	何度もあった	→問13へ
3	まったくなかった	→問14へ

問 13 問 12 の(1)で1～3のいずれかを答えた方、あるいは(2)のA～ウのいずれかで1又は2と答えた方にお聞きます。あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

選択肢番号	選択肢の内容
1	家族や親戚に相談した
2	友人、知人に相談した
3	学校関係者(教員、養護教員、スクールカウンセラーなど)に相談した
4	医療関係者(医師、看護師、助産師など)に相談した
5	民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー、カウンセリング機関、民間シェルターなど)に相談した
6	犯罪被害者支援センターや配偶者暴力相談支援センター(県女性相談センター、県男女共同参画センター、大島支庁福祉課など)に相談した
7	警察に連絡・相談した
8	法務局や人権擁護委員に相談した
9	町の相談窓口(住民相談など)に相談した
10	他の市町村の相談窓口(婦人相談員など)に相談した
11	上記6～10以外の公的な機関に相談した
12	その他(具体的に)
13	どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)

問 14 すべての方にお聞きます。あなたは、性別に起因する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(○はいくつでも)

選択肢番号	選択肢の内容
1	DV(配偶者等からの暴力)やストーカー行為、セクシュアルハラスメント、性暴力など性別に起因する暴力に関する専門の相談員がいる
2	メールによる相談ができる
3	チャット(インターネットを介したリアルタイムの会話)、SNS(インターネット上で利用者同士がつながれるような場所を提供するサービスで、フェイスブックやツイッター、ラインなど)による相談ができる
4	電話による相談ができる
5	通話料が無料
6	24時間相談ができる
7	医療費、カウンセリング費用、弁護士費用などが、無料で支援が受けられる
8	相談内容に応じて、関連する他の相談窓口との連携が行われる
9	同性の相談員がいる
10	匿名で相談ができる
11	弁護士など、法的知識のある相談員がいる
12	臨床心理士や公認心理士など、心理専門職の相談員がいる
13	その他(具体的に)

問 15 男性の方にお聞きます。職場や学校、家庭などの場で、「男だから」という固定観念やプレッシャーにより生きづらさや不便さを感じることはありますか。(○は1つ)

選択肢番号	選択肢の内容	次に回答する問
1	頻繁に感じる	→問 16 へ
2	たまに感じる	→問 16 へ
3	あまり感じない	→問 17 へ
4	まったく感じない	→問 17 へ

問 16 問 15 で「1. 頻繁に感じる」又は「2. たまに感じる」と答えた方にお聞きます。

(1) どのようなことに対して「生きづらさ」や「不便さ」を感じますか。あてはまるものに最大3つまで○をつけてください。

選択肢番号	選択肢の内容
1	デートで、男性がお金を多く負担したり女性をリードすべきという風潮
2	男性は定年までフルタイムの正社員で働くべきという考え
3	力仕事や危険な仕事は男の仕事という考え
4	高収入でなければならないというプレッシャー
5	「一家の大黒柱」でいなければならないというプレッシャー
6	男性は弱音を吐いたり、悩みを打ち明けることは恥ずかしいという考え
7	職場で出世したり、活躍しなければならないというプレッシャー
8	職場や地域活動等でリーダーは男性という考え
9	働きながらも、家事や育児、介護など家庭のことをすることが求められること
10	仕事中心の生活で、家事や育児、介護など家庭のことに十分関われないこと
11	家庭のことに関わりにくくする周囲の意識(家庭のことは女性の仕事という意識など)や環境(男性用トイレにおむつ交換台がないなど)
12	その他(具体的に)

(2) 「生きづらさ」や「不便さ」の具体的なエピソードがありましたら、教えてください。

--

問 17 あなたの最近の生活で、次の(1)～(7)について感じることはありますか。あてはまるものに○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

- (1) 生活に困窮している、(2) 十分に働けていない、働く場や機会がない、(3) 健康に不安を感じる、
 (4) 近くに頼れる人がいないなど自分は孤独であると感じる、(5) 困っていても支援が受けられないと感じる
 (6) 家族との関係が難しいと感じる、(7) 災害や事件・事故の不安がある

選択肢番号	選択肢の内容
1	とても感じる

2	ある程度感じる
3	あまり感じない
4	まったく感じない

問 18 あなたは「男女共同参画社会」※を実現するために、今後、役場はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)
 ※「男女共同参画社会」とは、誰もが互いにその人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会

選択肢番号	選択肢の内容
1	地域が男女平等になるよう制度や事業の見直しを行う
2	役場の管理職や審議会委員など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
3	民間企業や団体などの管理職に女性の登用が進むように支援する
4	女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
5	女性が少ない分野への女性の参加、男性が少ない分野への男性の参加を支援する
6	保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する
7	子どもたちへの男女平等や人権についての学習機会を充実する
8	労働時間の短縮や在宅勤務制度の導入など働き方の見直しを事業所に働きかける
9	仕事と育児・介護などとの両立支援制度の充実を事業所に働きかける
10	育児や介護などで一旦仕事を辞めた人の再就職や就労に困難を抱えている人の就職を支援する
11	住民への男女平等や人権についての生涯学習や啓発活動を進める
12	女性に対する暴力を根絶するための取組を進める
13	男女共同参画に関する行政・教育関係者の研修を充実する
14	その他(具体的に)

問 19 男女共同参画社会の実現に向けて、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

町民の皆様からご回答いただいたものを統計的に集計・分析するために、あなたご自身のことをおうかがいします。

F1 あなたの性別をお答えください。(〇は1つ)

選択肢番号	選択肢の内容
1	女性
2	男性
3	()

F2 あなたの年齢は、2023(令和5)年7月

1日現在で満何歳ですか。(〇は1つ)

選択肢番号	選択肢の内容
1	18～19歳
2	20～29歳
3	30～39歳
4	40～49歳
5	50～59歳
6	60～69歳
7	70～79歳
8	80歳以上

F3 あなたのお仕事は、次のどれに当たりますか。(〇は1つ)

選択肢番号	選択肢の内容
1	役員、正規の社員・職員・従業員
2	期間従業員や契約社員、派遣社員を含む非正規の職員・社員・従業員
3	自分で、または共同で事業を営んでいる自営業主、自由業
4	家族従業者・家族が営んでいる事業を手伝っている者
5	主婦・主夫
6	学生
7	無職
8	その他(具体的に)

F4 あなたは結婚していますか。(〇は1つ)

選択肢番号	選択肢の内容	次に回答する問
1	結婚している	→F5へ
2	婚姻届を出していないが、事実上の婚姻関係にある	→F5へ
3	離別・死別	→F6へ
4	未婚	→F6へ

F5 F4で1又は2と答えた方に、お二人の仕事の有無についてお聞きします。

なお、仕事とは、F3の1～4などのことをいいます。(〇は1つ)

選択肢番号	選択肢の内容
1	二人とも仕事がある
2	自分のみ仕事がある
3	配偶者(パートナー)のみ仕事がある
4	どちらも仕事がない
5	その他(具体的に)

F6 あなたの世帯の状況は、次のどれにあてはまりますか。

(〇は1つ)

選択肢番号	選択肢の内容
1	単身世帯
2	夫婦世帯
3	二世帯世帯(親と子など)
4	三世帯世帯(親と子と孫など)
5	その他(具体的に)

F7 お子さんがいらっしゃる方に、お子さんについてお聞きします。あてはまるものすべてに〇をつけてください。

選択肢番号	選択肢の内容
1	乳幼児
2	小学生(2011(平成23)年4月2日～2017(平成29)年4月1日生まれ)
3	中学生(2008(平成20)年4月2日～2011(平成23)年4月1日生まれ)
4	高校・高専生、専門学校・短大・大学生
5	上記4以外の未婚の子ども(2008(平成20)年4月1日以前生まれ)
6	上記4以外の結婚している子ども(2008(平成20)年4月1日以前生まれ)

男女共同参画の関する住民意識調査結果の概要

2024 年 3 月

龍郷町企画観光課

〒894-0192 鹿児島県大島郡龍郷町浦 110 番地

TEL 0997-69-4512

E-mail kikakukanko@town.tatsugo.lg.jp